

## 第7章 高齢者の生活に関する調査



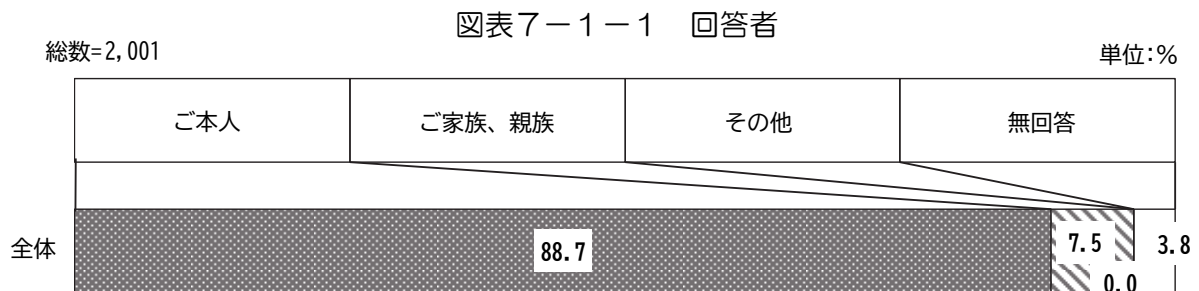
## 第7章 高齢者の生活に関する調査

### 1 調査票の回答者と本人の居住場所について

#### (1) 調査票の回答者

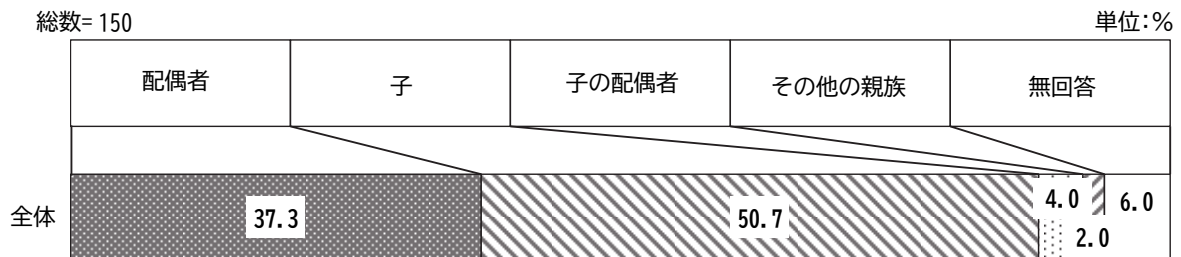
問1 この調査票を記入されるのはどなたですか。○をつけてください。

この調査票の記入は、「ご本人」の割合が88.7%で最も高く、次いで「ご家族、親族」が7.5%となっている。



「ご家族、親族」の内訳は、「子」の割合が50.7%で最も高く、次いで、「配偶者」が37.3%、「子の配偶者」が4.0%、「その他の親族」が2.0%となっている。

図表7-1-2 回答者「ご家族、親族」の内訳

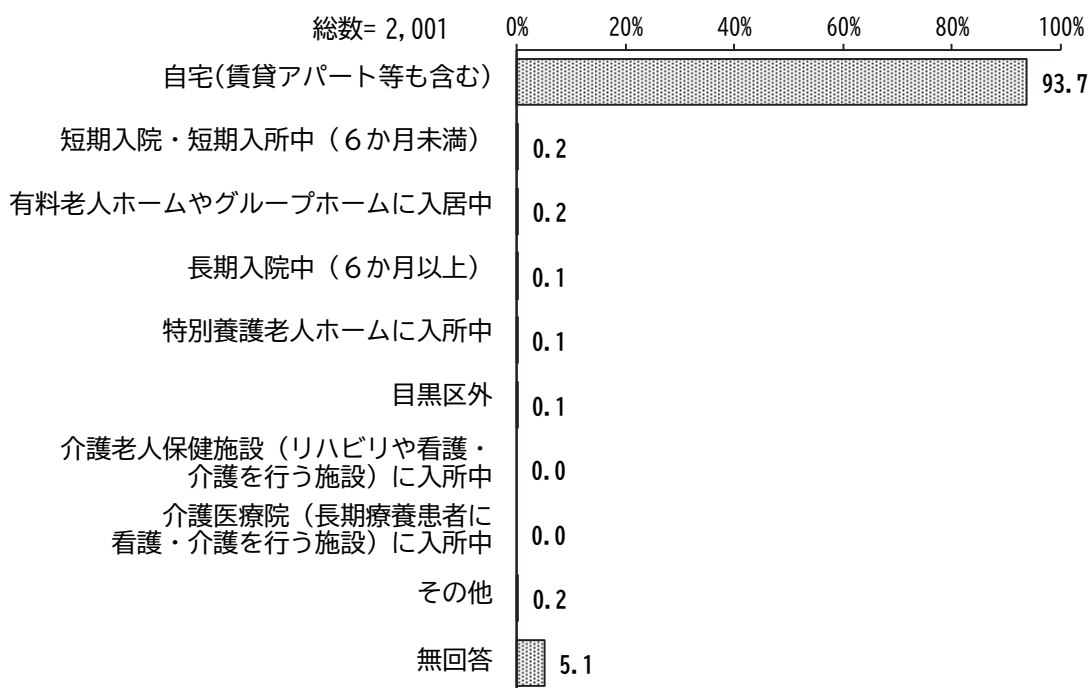


## (2) 居場所

問2 あなたは、現在どちらにいらっしゃいますか。(〇は1つ)

住まいの種類は、「自宅(賃貸アパート等も含む)」の割合が93.7%で最も高く、次いで「短期入院・短期入所中(6か月未満)」と「有料老人ホームやグループホームに入居中」がいずれも0.2%となっている。

図表7-1-3 居場所

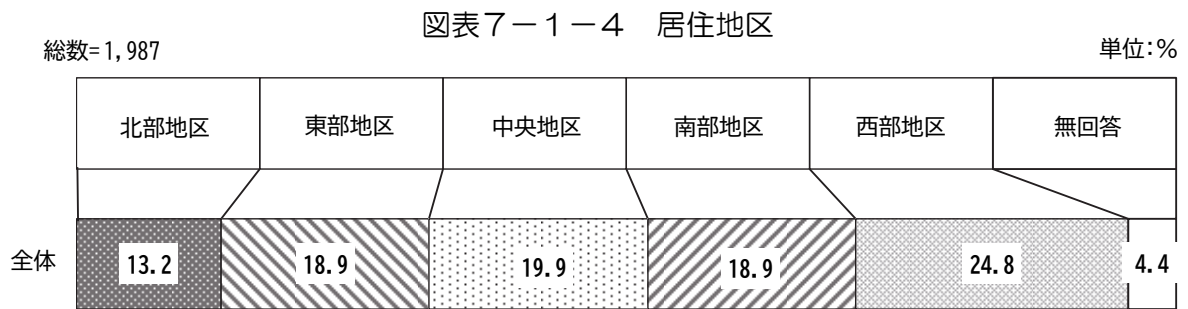


(3) 居住地区

問3 あなたは、どの地区にお住まいですか。地区名の番号に○をつけてください。

(○は1つ)

居住地区は、「西部地区」の割合が24.8%で最も高く、「北部地区」は13.2%と最も低くなっている。



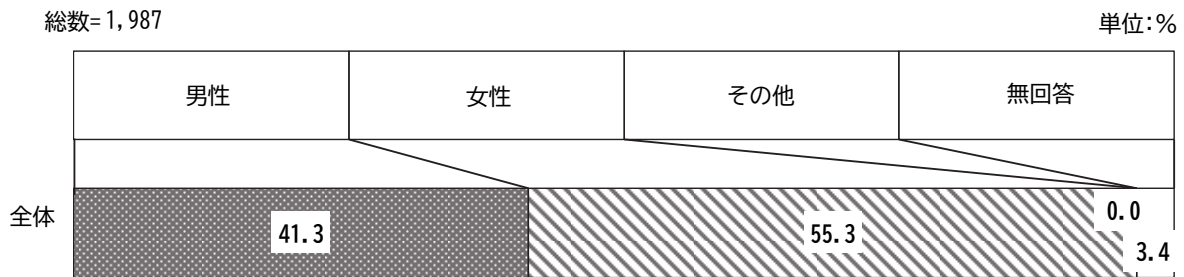
## 2 本人や家族の状況について

### (1) 性別

問4 あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)

性別は、「男性」の割合が41.3%、「女性」が55.3%となっている。

図表7-2-1 性別



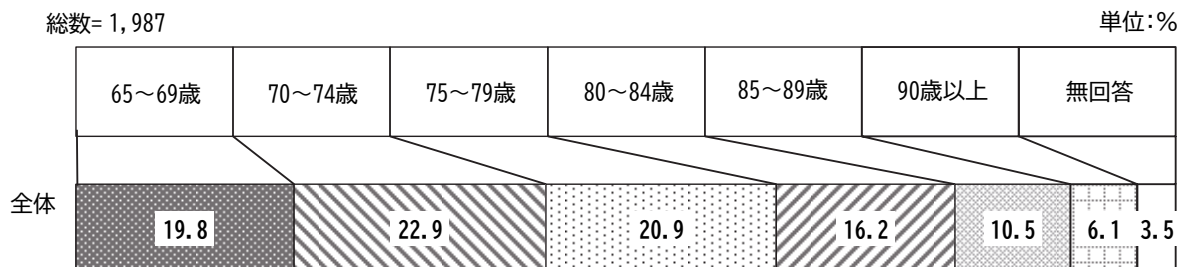
### (2) 年齢

問5 あなたの令和4年10月1日現在の満年齢を教えてください。(〇は1つ)

年齢は、「70～74歳」の割合が22.9%で最も高く、次いで「75～79歳」が20.9%、「65～69歳」が19.8%、「80～84歳」が16.2%となっている。

全体では、前期高齢者(74歳以下)が42.7%、後期高齢者(75歳以上)が53.7%となっている。

図表7-2-2 年齢



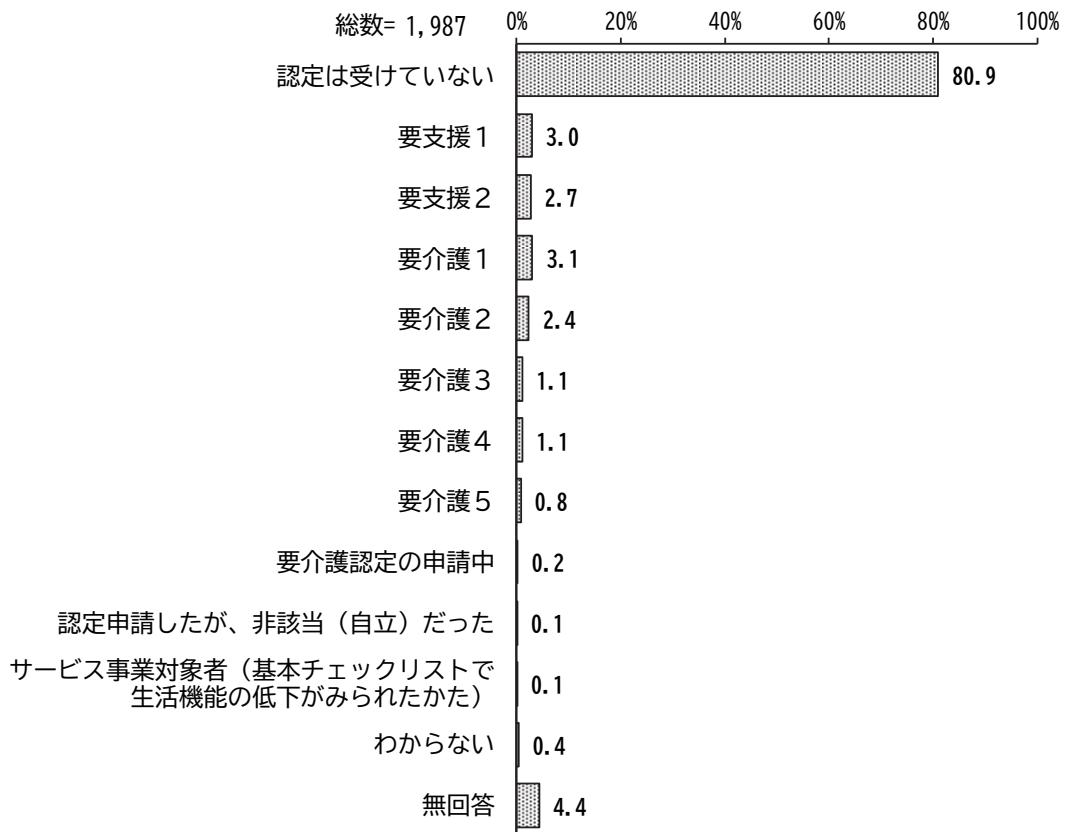
(3) 要介護認定（要支援認定）の状況

問6 あなたは、現在、介護保険の要介護認定又は要支援認定を受けていますか。

(○は1つ)

要介護（要支援）認定状況では、「認定は受けていない」の割合が80.9%で最も高く、次いで「要介護1」が3.1%、「要支援1」が3.0%、「要支援2」が2.7%と続いている。

図表7-2-3 要介護認定（要支援認定）の状況

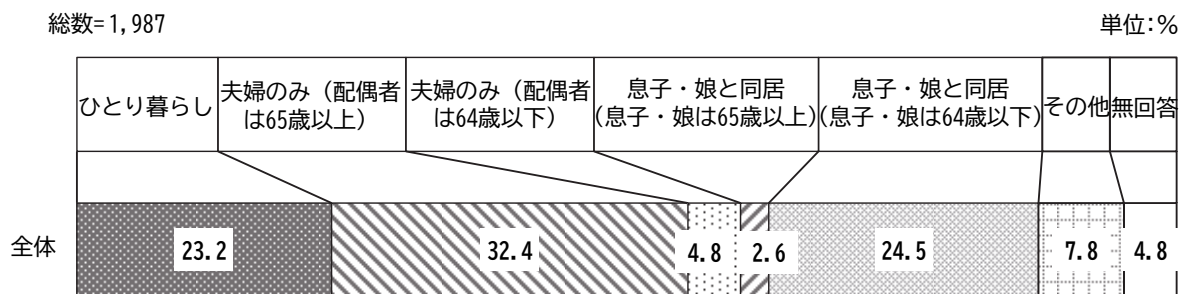


#### (4) 家族構成

問7 あなたの家族構成を教えてください。(○は1つ)

家族構成は、「夫婦のみ（配偶者は65歳以上）」の割合が32.4%で最も高く、次いで「息子・娘と同居（息子・娘は64歳以下）」が24.5%、「ひとり暮らし」が23.2%となっている。

図表7-2-4 家族構成



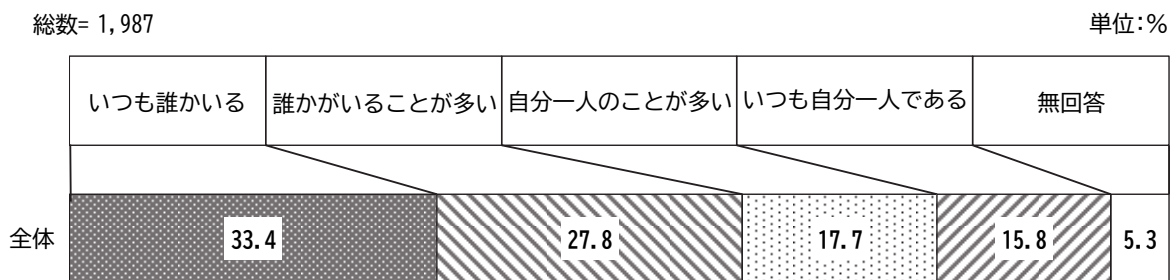


(5) 日中の家族の有無

問8 あなたが、日中、家にいるとき、他のご家族はいらっしゃいますか。別居しているご家族が訪問される場合も含みます。(〇は1つ)

日中の家族の状況は、「いつも誰がいる」の割合が33.4%で最も高く、次いで「誰かがいることが多い」が27.8%、「自分一人のことが多い」が17.7%、「いつも自分一人である」が15.8%となっている。

図表7-2-5 日中の家族の有無

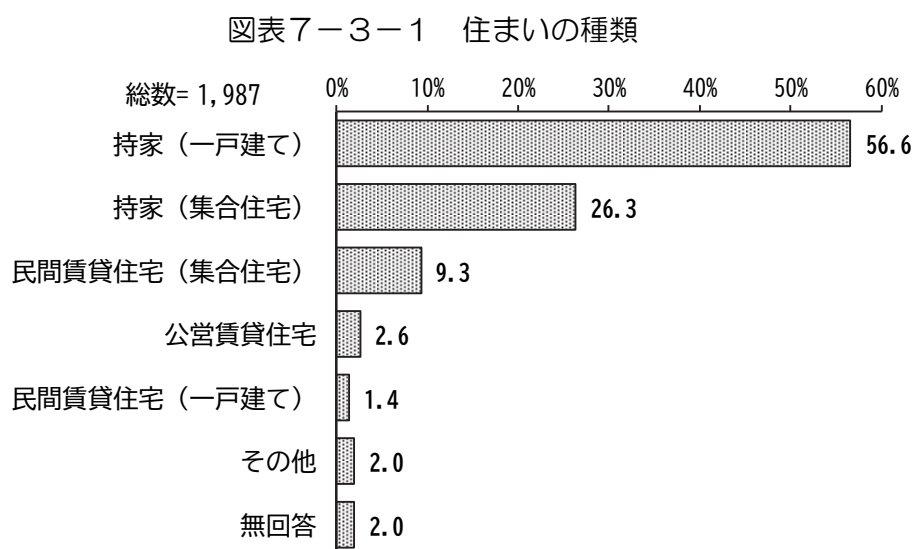


### 3 お住まいについて

#### (1) 住まいの種類

問9 現在のお住まいの種類はどれにあたりますか。(〇は1つ)

住まいの種類は、「持家（一戸建て）」の割合が56.6%で最も高く、次いで「持家（集合住宅）」が26.3%、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が9.3%となっている。持家の割合は、82.9%と高くなっている。

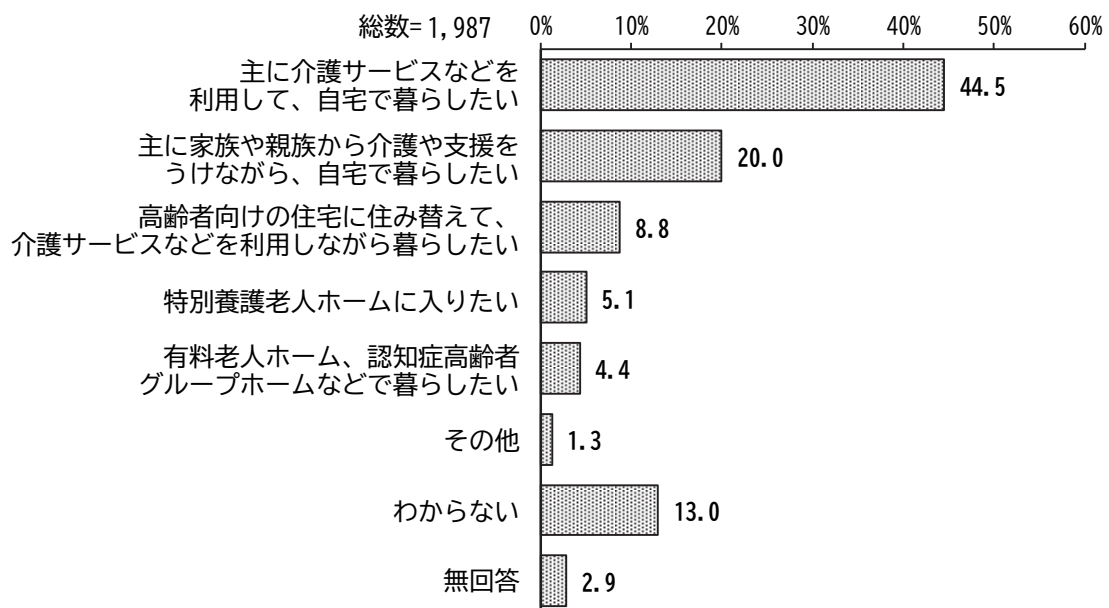


## (2) 介護が必要になったときの暮らし方

問 10 あなたは、今後、介護が必要になったとき、どのような暮らし方をしたいと思いますか。  
(〇は1つ)

介護が必要になったときの暮らし方は、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」が44.5%で最も高く、次いで「主に家族や親族から介護や支援を受けながら、自宅で暮らしたい」が20.0%、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」が8.8%となっている。高齢者向けの住宅への住み替えを含めると、自宅等での暮らしを希望する割合が73.3%となっている。

図表7-3-2 介護が必要になったときの暮らし方



性別・年齢階級別でみると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」の割合が男女ともに90歳以上を除くすべての年代で最も高い割合を占めている。

90歳以上では、男女ともに「主に家族や親族から介護や支援を受けながら、自宅で暮らしたい」の割合が最も高くなっている。

図表7-3-3 介護などが必要になったときの暮らし方（性別・年齢階級別）

（上段：回答数、下段：構成比）

	全体	主に家族や親族から介護や支援を受けながら、自宅で暮らしたい	主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用して暮らしたい	有料老人ホーム、認知症高齢者グループホームなどで暮らしたい	特別養護老人ホームに入りたい	その他	わからない	無回答	
										回答数
全体	1,987	398	884	174	87	102	26	259	57	
	100.0	20.0	44.5	8.8	4.4	5.1	1.3	13.0	2.9	
性別・年齢階級	男性全体	820	192	362	59	41	43	7	100	16
		100.0	23.4	44.1	7.2	5.0	5.2	0.9	12.2	2.0
	65～69歳	188	25	83	18	15	11	2	31	3
		100.0	13.3	44.1	9.6	8.0	5.9	1.1	16.5	1.6
	70～74歳	202	37	97	13	13	12	1	27	2
		100.0	18.3	48.0	6.4	6.4	5.9	0.5	13.4	1.0
	75～79歳	180	42	75	14	9	8	1	24	7
		100.0	23.3	41.7	7.8	5.0	4.4	0.6	13.3	3.9
	80～84歳	128	38	59	12	1	5	2	11	-
		100.0	29.7	46.1	9.4	0.8	3.9	1.6	8.6	-
	85～89歳	76	28	32	2	3	5	1	3	2
		100.0	36.8	42.1	2.6	3.9	6.6	1.3	3.9	2.6
	90歳以上	44	22	15	-	-	2	-	4	1
		100.0	50.0	34.1	-	-	4.5	-	9.1	2.3
女性全体	1,099	195	486	110	44	55	17	153	39	
	100.0	17.7	44.2	10.0	4.0	5.0	1.5	13.9	3.5	
65～69歳	206	23	76	31	9	10	6	45	6	
	100.0	11.2	36.9	15.0	4.4	4.9	2.9	21.8	2.9	
70～74歳	254	24	130	22	15	12	4	38	9	
	100.0	9.4	51.2	8.7	5.9	4.7	1.6	15.0	3.5	
75～79歳	235	32	114	27	9	13	-	34	6	
	100.0	13.6	48.5	11.5	3.8	5.5	-	14.5	2.6	
80～84歳	193	41	87	16	4	11	5	20	9	
	100.0	21.2	45.1	8.3	2.1	5.7	2.6	10.4	4.7	
85～89歳	131	41	51	10	5	7	-	12	5	
	100.0	31.3	38.9	7.6	3.8	5.3	-	9.2	3.8	
90歳以上	77	34	25	4	2	2	2	4	4	
	100.0	44.2	32.5	5.2	2.6	2.6	2.6	5.2	5.2	
無回答	68	11	36	5	2	4	2	6	2	
	100.0	16.2	52.9	7.4	2.9	5.9	2.9	8.8	2.9	

家族構成別にみると、「主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい」が、どの家族構成でも3割半ばを超えて高くなっている。さらに「息子・娘と同居（息子・娘は65歳以上）」では、「主に家族や親族から介護や支援を受けながら、自宅で暮らしたい」の割合が5割を超えている。

また、「ひとり暮らし」では、「高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用しながら暮らしたい」の割合が、他の家族構成に比べて高くなっている。

図表7-3-4 介護などが必要になったときの暮らし方（家族構成別）

（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	主に家族や親族から介護や支援を受けながら、自宅で暮らしたい	主に介護サービスなどを利用して、自宅で暮らしたい	高齢者向けの住宅に住み替えて、介護サービスなどを利用して暮らしたい	有料老人ホーム、認知症高齢者グループホームなどで暮らしたい	特別養護老人ホームに入りたい	その他	わからない	無回答
全体		1,987 100.0	398 20.0	884 44.5	174 8.8	87 4.4	102 5.1	26 1.3	259 13.0	57 2.9
家族構成	ひとり暮らし	460 100.0	51 11.1	213 46.3	58 12.6	16 3.5	21 4.6	4 0.9	87 18.9	10 2.2
	夫婦のみ (配偶者は65歳以上)	644 100.0	137 21.3	310 48.1	57 8.9	31 4.8	30 4.7	10 1.6	62 9.6	7 1.1
	夫婦のみ (配偶者は64歳以下)	96 100.0	27 28.1	38 39.6	7 7.3	5 5.2	5 5.2	1 1.0	12 12.5	1 1.0
	息子・娘と同居 (息子・娘は65歳以上)	51 100.0	26 51.0	18 35.3	2 3.9	1 2.0	1 2.0	1 2.0	2 3.9	-
	息子・娘と同居 (息子・娘は64歳以下)	486 100.0	106 21.8	218 44.9	31 6.4	26 5.3	35 7.2	5 1.0	58 11.9	7 1.4
	その他	155 100.0	34 21.9	60 38.7	13 8.4	5 3.2	7 4.5	4 2.6	30 19.4	2 1.3
	無回答	95 100.0	17 17.9	27 28.4	6 6.3	3 3.2	3 3.2	1 1.1	8 8.4	30 31.6

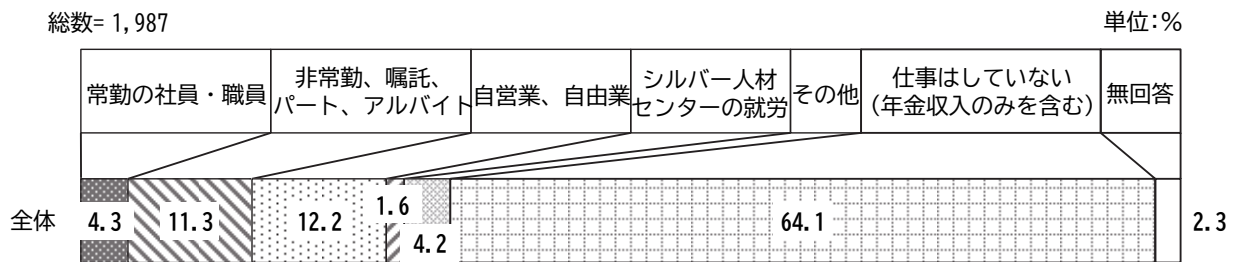
## 4 家計について

### (1) 就労の有無と職業

問 11 あなたの職業を教えてください。(〇は1つ)

就労の有無は、「仕事はしていない(年金収入のみを含む)」の割合が64.1%と最も高く、就労している人の職業では割合の高い順に、「自営業、自由業」が12.2%、「非常勤、嘱託、パート、アルバイト」が11.3%、「常勤の社員・職員」が4.3%となっている。

図表7-4-1 就労の有無と職業

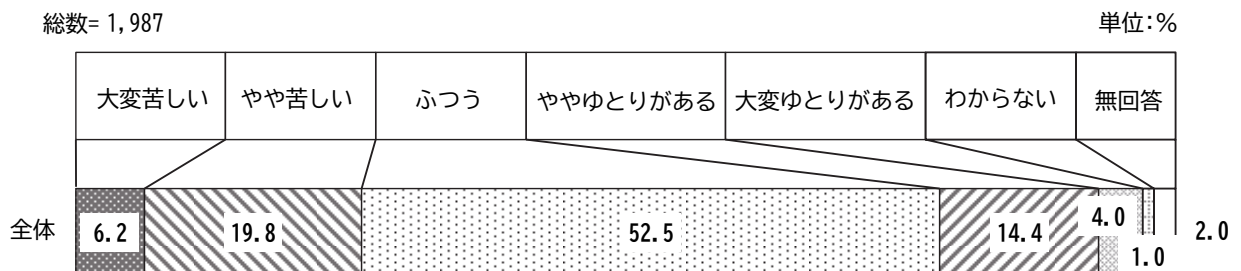


### (2) 経済状況

問 12 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(〇は1つ)

経済状況は、「ふつう」の割合が52.5%で最も高く、次いで「やや苦しい」が19.8%、「ややゆとりがある」が14.4%、「大変苦しい」が6.2%となっている。

図表7-4-2 経済状況



職業別にみると、「仕事はしていない」を含むすべての職業で「ふつう」が最も高く、その多くが5割を超えている。

次点を比較すると、「常勤の社員・職員」「自営業・自由業」で「ややゆとりがある」、「非常勤、嘱託、パート、アルバイト」「仕事はしていない（年金収入のみを含む）」では「やや苦しい」が、それぞれ他の職業よりも高くなっている。

図表7-4-3 経済状況（職業別）

(上段：回答数、下段：構成比)

		全体	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	わからない	無回答
全体		1,987 100.0	124 6.2	393 19.8	1,044 52.5	287 14.4	79 4.0	20 1.0	40 2.0
職業	常勤の社員・職員	86 100.0	1 1.2	12 14.0	50 58.1	19 22.1	4 4.7	- -	- -
	非常勤、嘱託、パート、 アルバイト	224 100.0	12 5.4	57 25.4	115 51.3	31 13.8	5 2.2	4 1.8	- -
	自営業、自由業	243 100.0	13 5.3	33 13.6	113 46.5	58 23.9	24 9.9	1 0.4	1 0.4
	シルバー人材センターの 就労	32 100.0	6 18.8	5 15.6	16 50.0	3 9.4	- -	2 6.3	- -
	その他	83 100.0	4 4.8	14 16.9	34 41.0	21 25.3	9 10.8	1 1.2	- -
	仕事はしていない (年金収入のみを含む)	1274 100.0	85 6.7	265 20.8	710 55.7	154 12.1	36 2.8	12 0.9	12 0.9
	無回答	45 100.0	3 6.7	7 15.6	6 13.3	1 2.2	1 2.2	- -	27 60.0

## 5 新型コロナウイルス感染症による影響について

### (1) 新型コロナウイルス感染拡大による影響

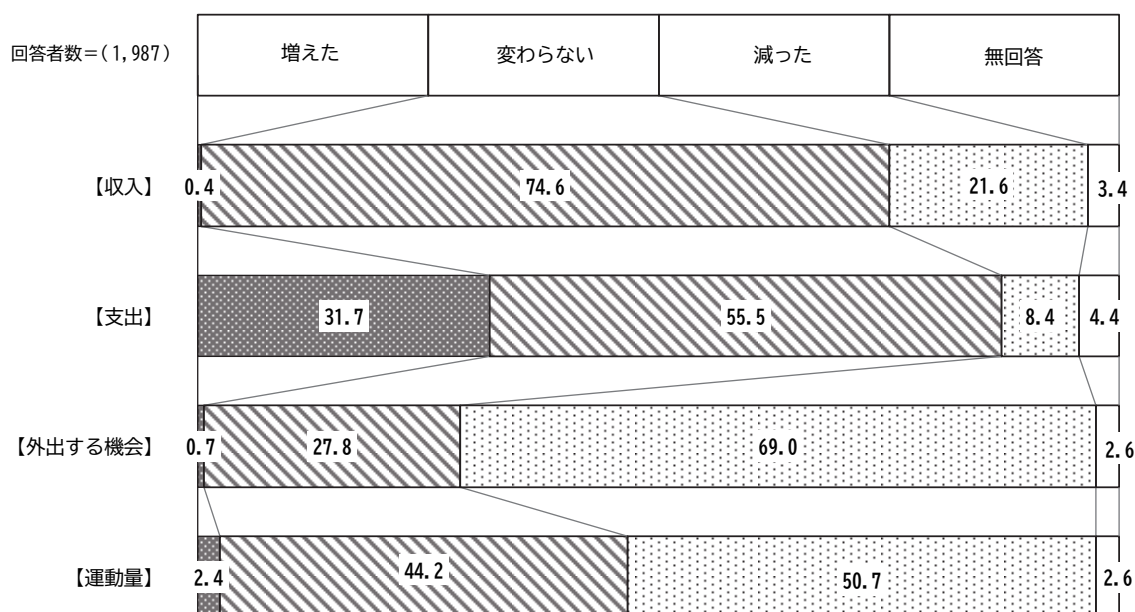
問 13 新型コロナウイルスの感染拡大によって、あなたの暮らしにどのような変化がありましたか。感染拡大前と現在の違いを教えてください。(各項目〇は1つ)

新型コロナウイルス感染拡大の前と後での暮らしの変化では、【収入】【支出】【家族との関係】【地域・社会とのつながり】【心身の健康状態】でそれぞれ「変わらない」の割合が最も高く、【外出する機会】【運動量】では「減った」の割合が最も高くなっている。

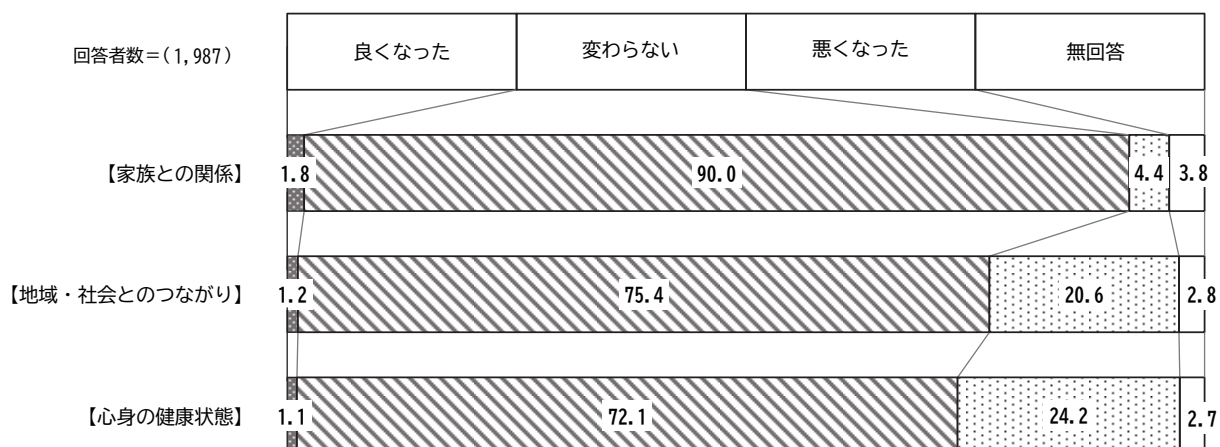
【支出】では「変わらない」の55.5%に次いで、「増えた」の割合が31.7%となっており、【地域・社会とのつながり】【心身の健康状態】では、いずれも「変わらない」に次いで、「悪くなった」の割合が高くなっている。

図表7-5-1 感染拡大前と現在とでの暮らしの変化

単位:%



単位:%





【外出する機会】を性別・年齢階級別にみると、男性（64.3%）・女性（72.3%）ともに「減った」の割合が最も高く、各年代でも最も高い割合を占めている。また、すべての年代で男性よりも女性の方が「減った」の割合が高くなっている。

図表7-5-2 感染拡大前と現在とでの暮らしの変化

【外出する機会】（性別・年齢階級別）

（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	増えた	変わらない	減った	無回答
全体		1,987 100.0	13 0.7	552 27.8	1,371 69.0	51 2.6
性別・年齢階級	男性全体	820 100.0	3 0.4	267 32.6	527 64.3	23 2.8
	65～69歳	188 100.0	1 0.5	56 29.8	127 67.6	4 2.1
	70～74歳	202 100.0	1 0.5	59 29.2	139 68.8	3 1.5
	75～79歳	180 100.0	1 0.6	64 35.6	107 59.4	8 4.4
	80～84歳	128 100.0	-	49 38.3	79 61.7	-
	85～89歳	76 100.0	-	20 26.3	52 68.4	4 5.3
	90歳以上	44 100.0	-	18 40.9	23 52.3	3 6.8
	女性全体	1,099 100.0	10 0.9	267 24.3	795 72.3	27 2.5
	65～69歳	206 100.0	1 0.5	39 18.9	163 79.1	3 1.5
	70～74歳	254 100.0	2 0.8	58 22.8	189 74.4	5 2.0
	75～79歳	235 100.0	3 1.3	60 25.5	168 71.5	4 1.7
	80～84歳	193 100.0	2 1.0	51 26.4	135 69.9	5 2.6
	85～89歳	131 100.0	1 0.8	30 22.9	94 71.8	6 4.6
	90歳以上	77 100.0	1 1.3	28 36.4	44 57.1	4 5.2
	無回答	68 100.0	-	18 26.5	49 72.1	1 1.5

【運動量】を性別・年齢階級別にみると、男性（47.6%）・女性（53.0%）ともに「減った」の割合が最も高くなっている。女性では、すべての年代で「減った」が最も高く、男性では、「65～69歳」、「75～79歳」、「90歳以上」で「変わらない」が最も高くなっている。

図表7-5-3 感染拡大前と現在とでの暮らしの変化

【運動量】（性別・年齢階級別）

（上段：回答数、下段：構成比）

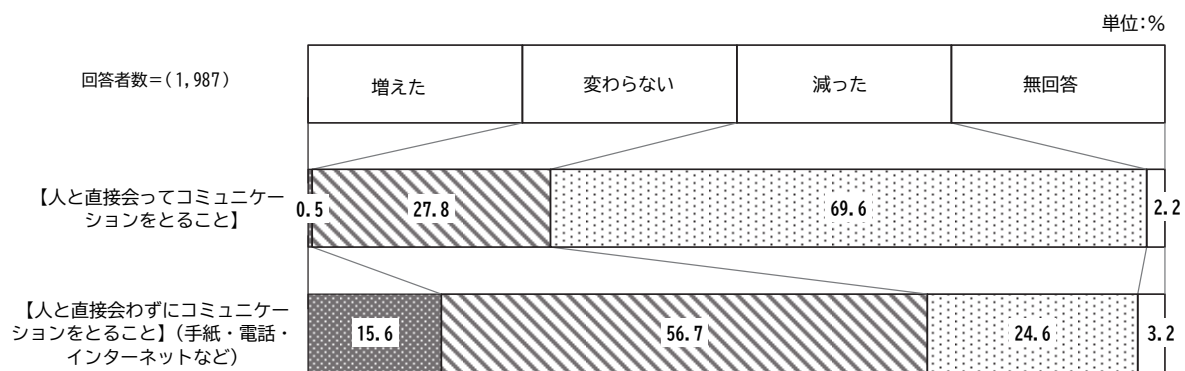
		全体	増えた	変わらない	減った	無回答
全体		1,987 100.0	48 2.4	879 44.2	1,008 50.7	52 2.6
性別・年齢階級	男性全体	820 100.0	24 2.9	385 47.0	390 47.6	21 2.6
	65～69歳	188 100.0	9 4.8	91 48.4	85 45.2	3 1.6
	70～74歳	202 100.0	5 2.5	94 46.5	100 49.5	3 1.5
	75～79歳	180 100.0	5 2.8	94 52.2	73 40.6	8 4.4
	80～84歳	128 100.0	5 3.9	58 45.3	65 50.8	- -
	85～89歳	76 100.0	- -	25 32.9	47 61.8	4 5.3
	90歳以上	44 100.0	- -	23 52.3	19 43.2	2 4.5
	女性全体	1,099 100.0	23 2.1	464 42.2	583 53.0	29 2.6
	65～69歳	206 100.0	4 1.9	99 48.1	101 49.0	2 1.0
	70～74歳	254 100.0	6 2.4	115 45.3	128 50.4	5 2.0
	75～79歳	235 100.0	7 3.0	104 44.3	121 51.5	3 1.3
	80～84歳	193 100.0	4 2.1	76 39.4	110 57.0	3 1.6
	85～89歳	131 100.0	2 1.5	38 29.0	82 62.6	9 6.9
	90歳以上	77 100.0	- -	31 40.3	39 50.6	7 9.1
無回答	68 100.0	1 1.5	30 44.1	35 51.5	2 2.9	

問 14 新型コロナウイルス感染拡大により、人とのコミュニケーションにどのような変化がありましたか。以下の項目について、①～③のどれかに○をつけてください。(○は1つ)

【人と直接会ってコミュニケーションをとること】では「減った」の割合が 69.6%と最も高く、次いで「変わらない」が27.8%、「増えた」は0.5%となっている。

【人と直接会わずにコミュニケーションをとること】(手紙・電話・インターネットなど)では、「変わらない」の割合が56.7%と最も高く、次いで「減った」が24.6%、「増えた」が15.6%となっている。

図表7-5-4 感染拡大による人とのコミュニケーションの変化



【人と直接会ってコミュニケーションをとること】について性別・年齢階級別にみると、男性（66.0%）・女性（72.3%）ともに、すべての年代で「減った」の割合が最も高く、外出の機会や運動量とともに、人と会う機会も高い割合で減少していることがうかがえる。

図表7-5-5 感染拡大による人とのコミュニケーションの変化  
 【人と直接会ってコミュニケーションをとること】（性別・年齢階級別）  
 （上段：回答数、下段：構成比）

		全体	増えた	変わらない	減った	無回答
全体		1,987 100.0	9 0.5	552 27.8	1,383 69.6	43 2.2
性別・年齢階級	男性全体	820 100.0	2 0.2	262 32.0	541 66.0	15 1.8
	65～69歳	188 100.0	- -	51 27.1	137 72.9	- -
	70～74歳	202 100.0	1 0.5	58 28.7	138 68.3	5 2.5
	75～79歳	180 100.0	- -	59 32.8	116 64.4	5 2.8
	80～84歳	128 100.0	1 0.8	48 37.5	77 60.2	2 1.6
	85～89歳	76 100.0	- -	24 31.6	51 67.1	1 1.3
	90歳以上	44 100.0	- -	20 45.5	22 50.0	2 4.5
	女性全体	1,099 100.0	7 0.6	274 24.9	795 72.3	23 2.1
	65～69歳	206 100.0	- -	39 18.9	165 80.1	2 1.0
	70～74歳	254 100.0	1 0.4	43 16.9	206 81.1	4 1.6
	75～79歳	235 100.0	2 0.9	64 27.2	166 70.6	3 1.3
	80～84歳	193 100.0	1 0.5	51 26.4	135 69.9	6 3.1
	85～89歳	131 100.0	3 2.3	39 29.8	85 64.9	4 3.1
	90歳以上	77 100.0	- -	36 46.8	37 48.1	4 5.2
	無回答	68 100.0	- -	16 23.5	47 69.1	5 7.4

【人と直接会わずにコミュニケーションをとること】(手紙・電話・インターネットなど)について性別・年齢階級別にみると、男性(58.7%)・女性(55.4%)ともに、「変わらない」の割合が最も高い。「変わらない」では、すべての年代で最も高く、そのほとんどで5割を超えている。

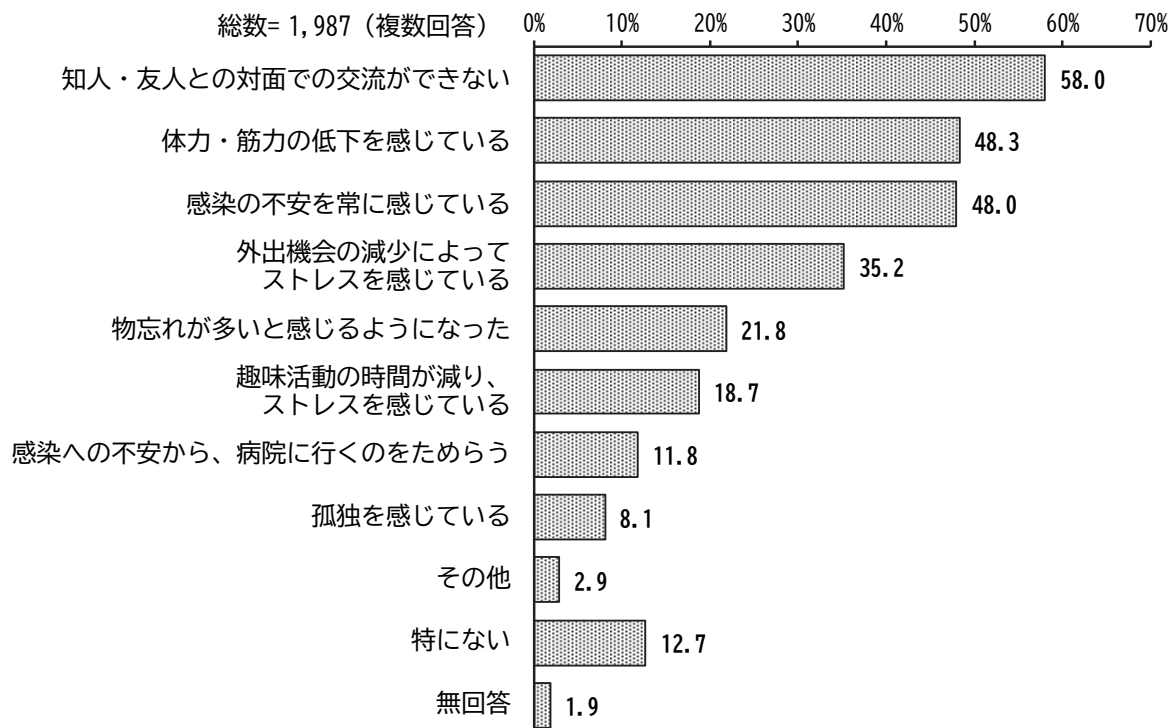
図表7-5-6 感染拡大による人とのコミュニケーションの変化  
 【人と直接会わずにコミュニケーションをとること】(手紙・電話・インターネットなど)  
 (性別・年齢階級別)  
 (上段：回答数、下段：構成比)

		全体	増えた	変わらない	減った	無回答
全体		1,987 100.0	309 15.6	1,126 56.7	489 24.6	63 3.2
性別・年齢階級	男性全体	820 100.0	131 16.0	481 58.7	184 22.4	24 2.9
	65～69歳	188 100.0	51 27.1	112 59.6	25 13.3	- -
	70～74歳	202 100.0	30 14.9	120 59.4	45 22.3	7 3.5
	75～79歳	180 100.0	30 16.7	108 60.0	35 19.4	7 3.9
	80～84歳	128 100.0	12 9.4	74 57.8	38 29.7	4 3.1
	85～89歳	76 100.0	7 9.2	37 48.7	29 38.2	3 3.9
	90歳以上	44 100.0	1 2.3	29 65.9	11 25.0	3 6.8
	女性全体	1,099 100.0	172 15.7	609 55.4	283 25.8	35 3.2
	65～69歳	206 100.0	52 25.2	115 55.8	38 18.4	1 0.5
	70～74歳	254 100.0	41 16.1	140 55.1	65 25.6	8 3.1
	75～79歳	235 100.0	39 16.6	138 58.7	51 21.7	7 3.0
	80～84歳	193 100.0	21 10.9	112 58.0	51 26.4	9 4.7
	85～89歳	131 100.0	13 9.9	57 43.5	56 42.7	5 3.8
	90歳以上	77 100.0	6 7.8	44 57.1	22 28.6	5 6.5
無回答	68 100.0	6 8.8	36 52.9	22 32.4	4 5.9	

問 15 新型コロナウイルス感染症が長期間にわたり流行していることによる困りごとを教えてください。(〇はいくつでも)

新型コロナウイルス感染症の長期流行による困りごとでは、「知人・友人と対面での交流ができない」の割合が58.0%で最も高く、次いで「体力・筋力の低下を感じている」(48.3%)、「感染の不安を常を感じている」(48.0%)となっている。

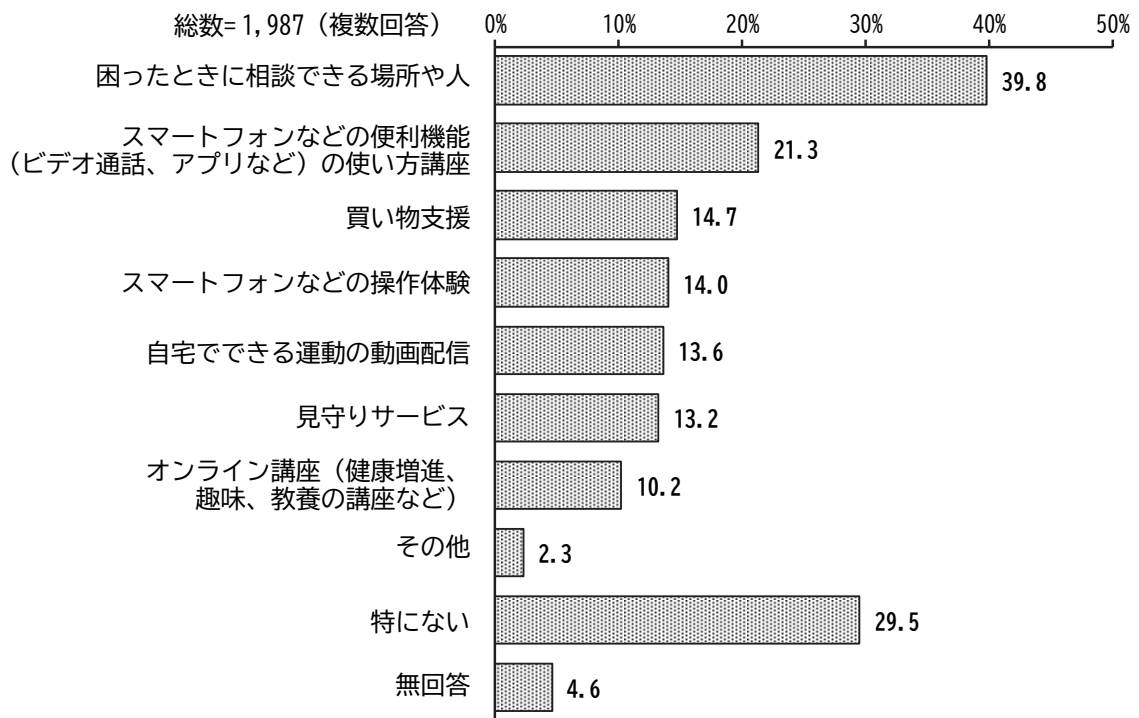
図表 7-5-7 長期間の感染症流行による困りごと



問 16 新型コロナウイルス感染症の流行以降、暮らしのあり方が変化した中で、今後あると良いサービスを教えてください。(〇はいくつでも)

新型コロナウイルスの流行以降の暮らしで、今後あると良いサービスは、「困ったときに相談できる場所や人」の割合が39.8%で最も高く、次いで「スマートフォンなどの便利機能（ビデオ通話、アプリなど）の使い方講座」(21.3%)、「買い物支援」(14.7%)、「スマートフォンなどの操作体験」(14.0%)と続いている。一方で、「特にない」の割合も29.5%となっている。

図表7-5-8 感染症流行後の暮らしで、あるとよいサービス

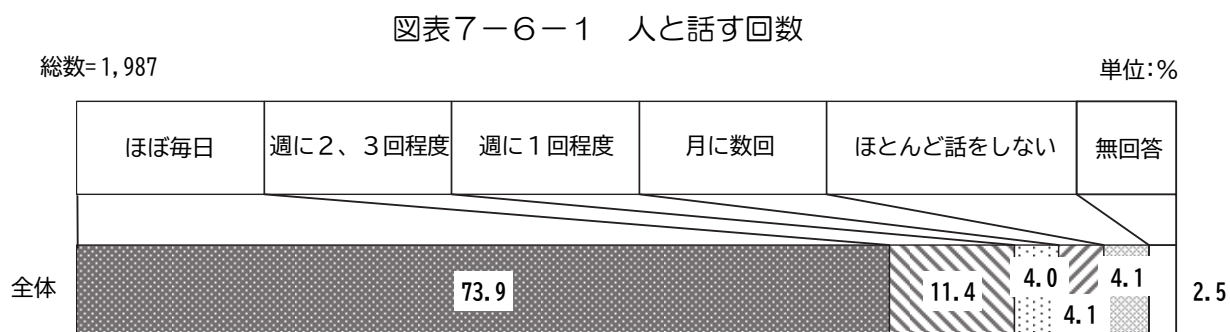


## 6 近隣や知人・友人とのお付き合いについて

### (1) 人と話す回数

問 17 あなたは、ふだんの程度、人（同居の家族を含む）と話をしますか。電話やメールなども含めてお答えください。（〇は1つ）

人と話す回数は、「ほぼ毎日」の割合が73.9%で最も高く、次いで「週に2、3回程度」が11.4%、「週に1回程度」、「月に数回」、「ほとんど話をしない」がそれぞれ約4%となっている。





人と話す回数を家族構成別にみると、すべての家族構成で「ほぼ毎日」の割合が最も高く、「夫婦のみ（配偶者は65歳以上）」で87.1%、「夫婦のみ（配偶者は64歳以下）」で84.4%となっている。一方、「ひとり暮らし」では「週に2、3回程度」が27.6%、「週に1回程度」が11.5%と、他の家族構成と比べて高い割合となっている。

図表7-6-2 人と話す回数（家族構成別）

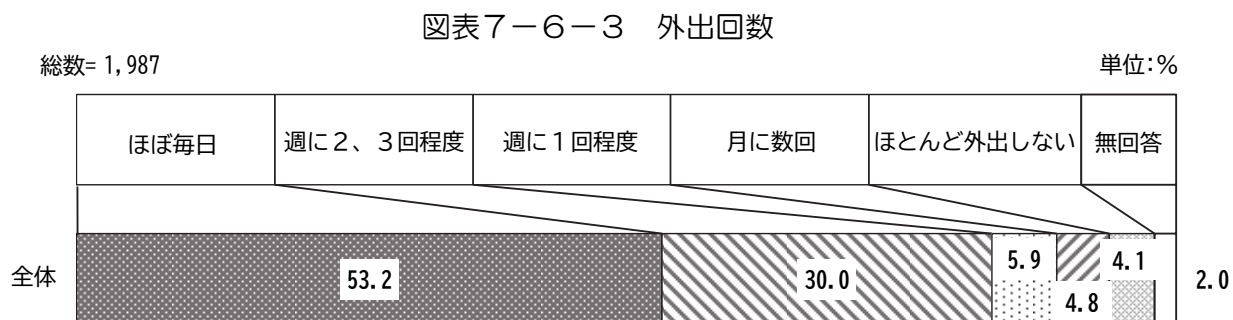
（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	ほぼ毎日	週に2、3回程度	週に1回程度	月に数回	ほとんど話をしない	無回答
全体		1,987 100.0	1,468 73.9	227 11.4	80 4.0	81 4.1	82 4.1	49 2.5
家族構成	ひとり暮らし	460 100.0	178 38.7	127 27.6	53 11.5	41 8.9	43 9.3	18 3.9
	夫婦のみ （配偶者は65歳以上）	644 100.0	561 87.1	35 5.4	11 1.7	16 2.5	10 1.6	11 1.7
	夫婦のみ （配偶者は64歳以下）	96 100.0	81 84.4	5 5.2	1 1.0	1 1.0	5 5.2	3 3.1
	息子・娘と同居 （息子・娘は65歳以上）	51 100.0	41 80.4	2 3.9	2 3.9	1 2.0	4 7.8	1 2.0
	息子・娘と同居 （息子・娘は64歳以下）	486 100.0	405 83.3	41 8.4	8 1.6	14 2.9	10 2.1	8 1.6
	その他	155 100.0	135 87.1	8 5.2	2 1.3	4 2.6	5 3.2	1 0.6
	無回答	95 100.0	67 70.5	9 9.5	3 3.2	4 4.2	5 5.3	7 7.4

## (2) 外出回数

問 18 あなたは、近所への買い物、散歩、通院等を含め、外出することはどのくらいありますか。(〇は1つ)

外出回数では、「ほぼ毎日」の割合が53.2%で最も高く、次いで「週に2、3回程度」が30.0%、「週に1回程度」が5.9%と続いている。



外出回数を性別・年齢階級別にみると、「ほぼ毎日」で男性（58.5%）が女性（49.4%）を上回っており、男性・女性ともに「65歳～69歳」の割合が最も高い。また、加齢とともに回数は減少の傾向にあり、特に85歳以上では顕著となっている。

図表7-6-4 外出回数（性別・年齢階級別）

（上段：回答数、下段：構成比）

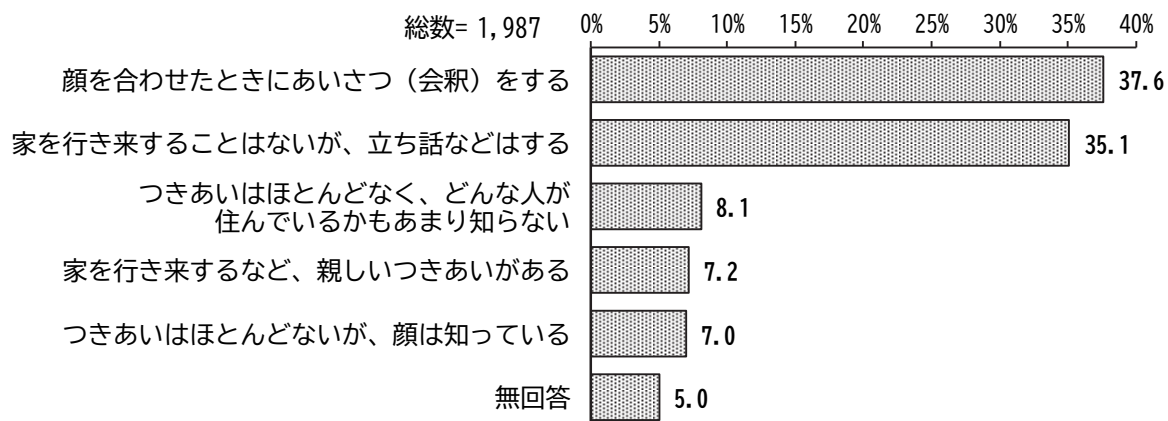
		全体	ほぼ毎日	週に2、3回程度	週に1回程度	月に数回	ほとんど外出しない	無回答
全体		1,987 100.0	1,057 53.2	597 30.0	118 5.9	95 4.8	81 4.1	39 2.0
性別・年齢階級	男性全体	820 100.0	480 58.5	215 26.2	46 5.6	39 4.8	27 3.3	13 1.6
	65～69歳	188 100.0	136 72.3	41 21.8	7 3.7	2 1.1	2 1.1	- -
	70～74歳	202 100.0	134 66.3	44 21.8	7 3.5	9 4.5	3 1.5	5 2.5
	75～79歳	180 100.0	104 57.8	50 27.8	11 6.1	9 5.0	4 2.2	2 1.1
	80～84歳	128 100.0	71 55.5	37 28.9	11 8.6	6 4.7	2 1.6	1 0.8
	85～89歳	76 100.0	25 32.9	29 38.2	4 5.3	8 10.5	8 10.5	2 2.6
	90歳以上	44 100.0	9 20.5	14 31.8	6 13.6	5 11.4	7 15.9	3 6.8
	女性全体	1,099 100.0	543 49.4	360 32.8	69 6.3	52 4.7	53 4.8	22 2.0
	65～69歳	206 100.0	143 69.4	50 24.3	6 2.9	4 1.9	2 1.0	1 0.5
	70～74歳	254 100.0	154 60.6	73 28.7	11 4.3	11 4.3	- -	5 2.0
	75～79歳	235 100.0	123 52.3	91 38.7	10 4.3	3 1.3	6 2.6	2 0.9
	80～84歳	193 100.0	86 44.6	65 33.7	13 6.7	11 5.7	9 4.7	9 4.7
	85～89歳	131 100.0	32 24.4	50 38.2	20 15.3	13 9.9	13 9.9	3 2.3
	90歳以上	77 100.0	5 6.5	29 37.7	9 11.7	9 11.7	23 29.9	2 2.6
	無回答	68 100.0	34 50.0	22 32.4	3 4.4	4 5.9	1 1.5	4 5.9

### (3) 隣近所との交流

問 19 あなたは、ふだん隣近所の人とどのような交流がありますか。(〇は1つ)

隣近所との交流は、「顔を合わせたときにあいさつ(会釈)をする」の割合が37.6%で最も高く、次いで「家を行き来することはないが、立ち話などはする」が35.1%、「つきあいはほとんどなく、どんな人が住んでいるかもあまり知らない」が8.1%となっている。

図表7-6-5 隣近所との交流



性別・年齢階級別にみると、男性では「顔を合わせたときにあいさつ(会釈)をする」が46.6%、女性では「家を行き来することはないが、立ち話などはする」が41.2%で、それぞれ最も高い割合となっている。

また、男女ともに90歳以上では、「つきあいはほとんどないが、顔は知っている」と「つきあいはほとんどなく、どんな人が住んでいるかもあまり知らない」を合わせた「つきあいはほとんどない」の割合が約3割となっている。

図表7-6-6 隣近所との交流(性別・年齢階級別)

(上段:回答数、下段:構成比)

		全体	親しいつきあいがあ る	家を行き来すること はないが、立ち話 などはする	顔を合わせたとき にあいさつ(会釈) をする	つきあいはほとん どないが、顔は知 っている	つきあいはほとん どなく、どんな人 が住んでいるかも あまり知らない	無回答
全体		1,987 100.0	144 7.2	698 35.1	747 37.6	139 7.0	160 8.1	99 5.0
性別・ 年齢階級	男性全体	820 100.0	32 3.9	218 26.6	382 46.6	74 9.0	77 9.4	37 4.5
	65~69歳	188 100.0	4 2.1	41 21.8	108 57.4	15 8.0	18 9.6	2 1.1
	70~74歳	202 100.0	3 1.5	50 24.8	93 46.0	25 12.4	24 11.9	7 3.5
	75~79歳	180 100.0	7 3.9	53 29.4	91 50.6	8 4.4	15 8.3	6 3.3
	80~84歳	128 100.0	11 8.6	45 35.2	44 34.4	11 8.6	7 5.5	10 7.8
	85~89歳	76 100.0	5 6.6	16 21.1	35 46.1	6 7.9	8 10.5	6 7.9
	90歳以上	44 100.0	1 2.3	13 29.5	11 25.0	9 20.5	4 9.1	6 13.6
	女性全体	1,099 100.0	111 10.1	453 41.2	342 31.1	60 5.5	78 7.1	55 5.0
	65~69歳	206 100.0	10 4.9	88 42.7	79 38.3	11 5.3	14 6.8	4 1.9
	70~74歳	254 100.0	26 10.2	120 47.2	71 28.0	11 4.3	14 5.5	12 4.7
	75~79歳	235 100.0	22 9.4	106 45.1	73 31.1	8 3.4	15 6.4	11 4.7
	80~84歳	193 100.0	27 14.0	68 35.2	61 31.6	11 5.7	12 6.2	14 7.3
	85~89歳	131 100.0	19 14.5	45 34.4	38 29.0	8 6.1	10 7.6	11 8.4
	90歳以上	77 100.0	7 9.1	24 31.2	19 24.7	11 14.3	13 16.9	3 3.9
	無回答	68 100.0	1 1.5	27 39.7	23 33.8	5 7.4	5 7.4	7 10.3

健康状態別にみると、「とてもよい」では「家を行き来することはないが、立ち話などはする」が43.9%とほかの健康状態に比べて高い割合となっている。「まあよい」「あまりよくない」「よくない」では、いずれも「顔を合わせたときにあいさつ（会釈）をする」が最も高い割合を占めている。

「よくない」では、「つきあいはほとんどなく、どんな人が住んでいるかもあまり知らない」が22.4%と、ほかの健康状態に比べて高い割合となっている。

図表7-6-7 隣近所との交流（健康状態別）

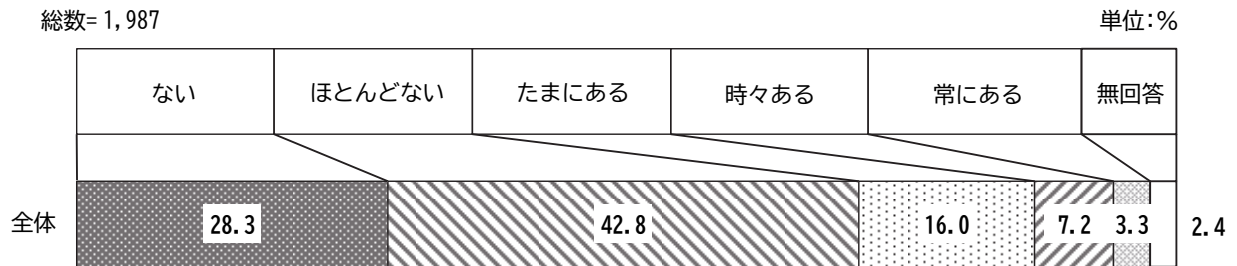
（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	親しい 家を行き来する つきあいが ある	ないが、 家を行き来する ことはする 立ち話などは する	顔を 合わせたときに あいさつ（会釈） をする	つきあいは ほとんど ないが、 顔は知 っている	つきあいは ほとんど なく、 どんな 人が住 んでいる かも あまり 知らない	無 回 答
全体		1,987 100.0	144 7.2	698 35.1	747 37.6	139 7.0	160 8.1	99 5.0
健康 状 態	とてもよい	189 100.0	23 12.2	83 43.9	63 33.3	7 3.7	11 5.8	2 1.1
	まあよい	1317 100.0	91 6.9	484 36.8	509 38.6	83 6.3	91 6.9	59 4.5
	あまりよくない	350 100.0	21 6.0	104 29.7	136 38.9	31 8.9	35 10.0	23 6.6
	よくない	76 100.0	3 3.9	11 14.5	25 32.9	14 18.4	17 22.4	6 7.9
	無回答	55 100.0	6 10.9	16 29.1	14 25.5	4 7.3	6 10.9	9 16.4

問20 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。(〇は1つ)

孤独を感じる度合いは、「ほとんどない」の割合が42.8%で最も高く、次いで「ない」が28.3%、「たまにある」が16.0%となっている。「たまにある」「時々ある」「常にある」を合わせた『孤独と感じたことがある』の割合は、26.5%となっている。

図表7-6-8 孤独を感じる度合い



性別・年齢階級別にみると、男性（46.2%）・女性（40.5%）ともに、「ほとんどない」の割合が最も高い。また、すべての年代で男性よりも女性の方が「たまにある」の割合が高くなっている。

図表7-6-9 孤独と感ずる度合い（性別・年齢階級別）

（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	ない	ほとんどない	たまにある	時々ある	常にある	無回答
全体		1,987 100.0	562 28.3	850 42.8	318 16.0	144 7.2	65 3.3	48 2.4
性別・年齢階級	男性全体	820 100.0	247 30.1	379 46.2	103 12.6	51 6.2	22 2.7	18 2.2
	65～69歳	188 100.0	54 28.7	98 52.1	23 12.2	7 3.7	6 3.2	- -
	70～74歳	202 100.0	55 27.2	93 46.0	28 13.9	14 6.9	6 3.0	6 3.0
	75～79歳	180 100.0	60 33.3	84 46.7	21 11.7	7 3.9	3 1.7	5 2.8
	80～84歳	128 100.0	37 28.9	62 48.4	11 8.6	13 10.2	2 1.6	3 2.3
	85～89歳	76 100.0	28 36.8	28 36.8	11 14.5	4 5.3	4 5.3	1 1.3
	90歳以上	44 100.0	12 27.3	14 31.8	9 20.5	5 11.4	1 2.3	3 6.8
	女性全体	1,099 100.0	298 27.1	445 40.5	203 18.5	87 7.9	40 3.6	26 2.4
	65～69歳	206 100.0	51 24.8	98 47.6	38 18.4	12 5.8	6 2.9	1 0.5
	70～74歳	254 100.0	70 27.6	111 43.7	41 16.1	19 7.5	10 3.9	3 1.2
	75～79歳	235 100.0	66 28.1	102 43.4	47 20.0	13 5.5	3 1.3	4 1.7
	80～84歳	193 100.0	54 28.0	74 38.3	33 17.1	17 8.8	5 2.6	10 5.2
	85～89歳	131 100.0	32 24.4	37 28.2	25 19.1	21 16.0	12 9.2	4 3.1
	90歳以上	77 100.0	25 32.5	21 27.3	18 23.4	5 6.5	4 5.2	4 5.2
無回答	68 100.0	17 25.0	26 38.2	12 17.6	6 8.8	3 4.4	4 5.9	



家族構成別にみると、すべての家族構成で「ほとんどない」の割合が最も高くなっている。一方で「ひとり暮らし」では、「たまにある」「時々ある」「常にある」を合わせた『孤独と感じたことがある』の割合が47.6%と、ほかの家族構成と比べると高くなっている。

図表7-6-10 孤独と感ずる度合い（家族構成別）

（上段：回答数、下段：構成比）

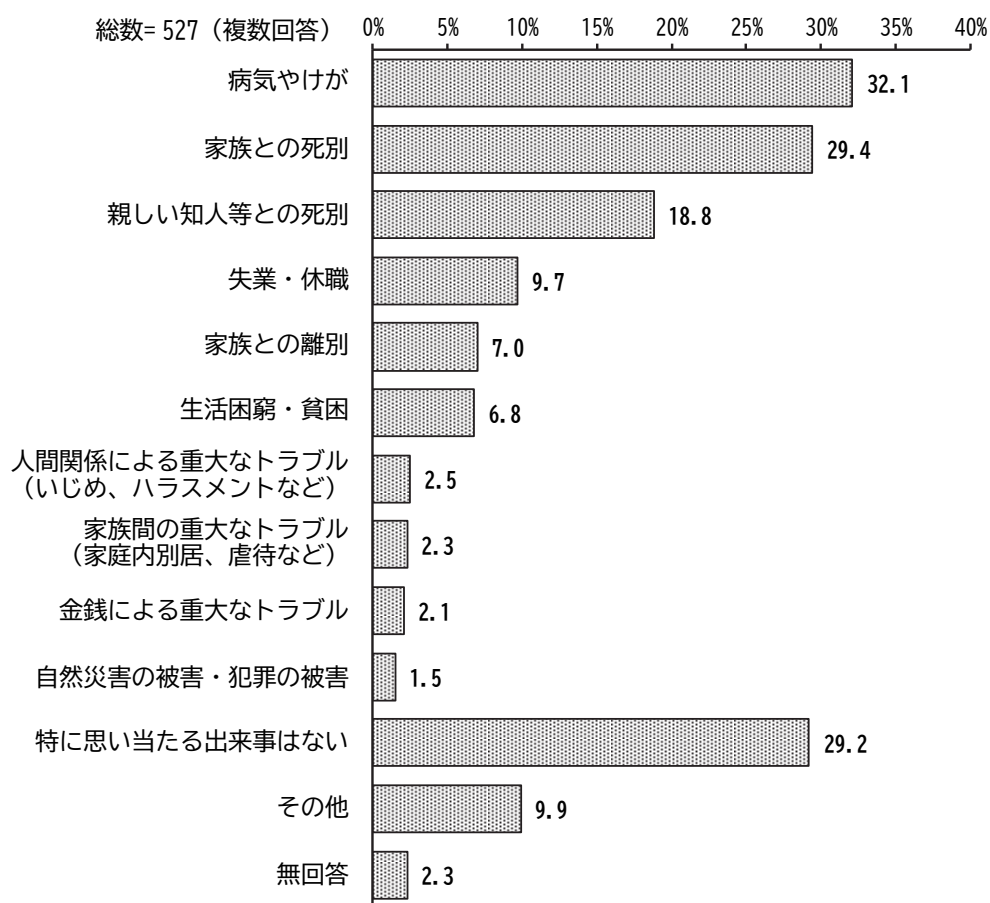
		全体	ない	ほとんどない	たまにある	時々ある	常にある	無回答
全体		1,987 100.0	562 28.3	850 42.8	318 16.0	144 7.2	65 3.3	48 2.4
家族構成	ひとり暮らし	460 100.0	85 18.5	142 30.9	113 24.6	65 14.1	41 8.9	14 3.0
	夫婦のみ （配偶者は65歳以上）	644 100.0	215 33.4	314 48.8	68 10.6	31 4.8	5 0.8	11 1.7
	夫婦のみ （配偶者は64歳以下）	96 100.0	26 27.1	50 52.1	11 11.5	3 3.1	1 1.0	5 5.2
	息子・娘と同居 （息子・娘は65歳以上）	51 100.0	11 21.6	23 45.1	11 21.6	2 3.9	2 3.9	2 3.9
	息子・娘と同居 （息子・娘は64歳以下）	486 100.0	150 30.9	208 42.8	84 17.3	24 4.9	10 2.1	10 2.1
	その他	155 100.0	51 32.9	75 48.4	16 10.3	10 6.5	2 1.3	1 0.6
	無回答	95 100.0	24 25.3	38 40.0	15 15.8	9 9.5	4 4.2	5 5.3

【問 20 で「3」、「4」、「5」と回答した方におたずねします。】

問 21 その状況（問 20 で回答した状況）に至る前に経験した出来事を教えてください。（〇はいくつでも）

孤独と感じるに至るまでの経緯については、「病気やけが」の割合が 32.1%で最も高く、次いで「家族との死別」が 29.4%、「親しい知人等との死別」が 18.8%、「失業・休職」が 9.7%となっている。一方で、「特に思い当たる出来事はない」も 29.2%と高い割合となっている。

図表 7-6-11 孤独と感じるに至るまでの経緯



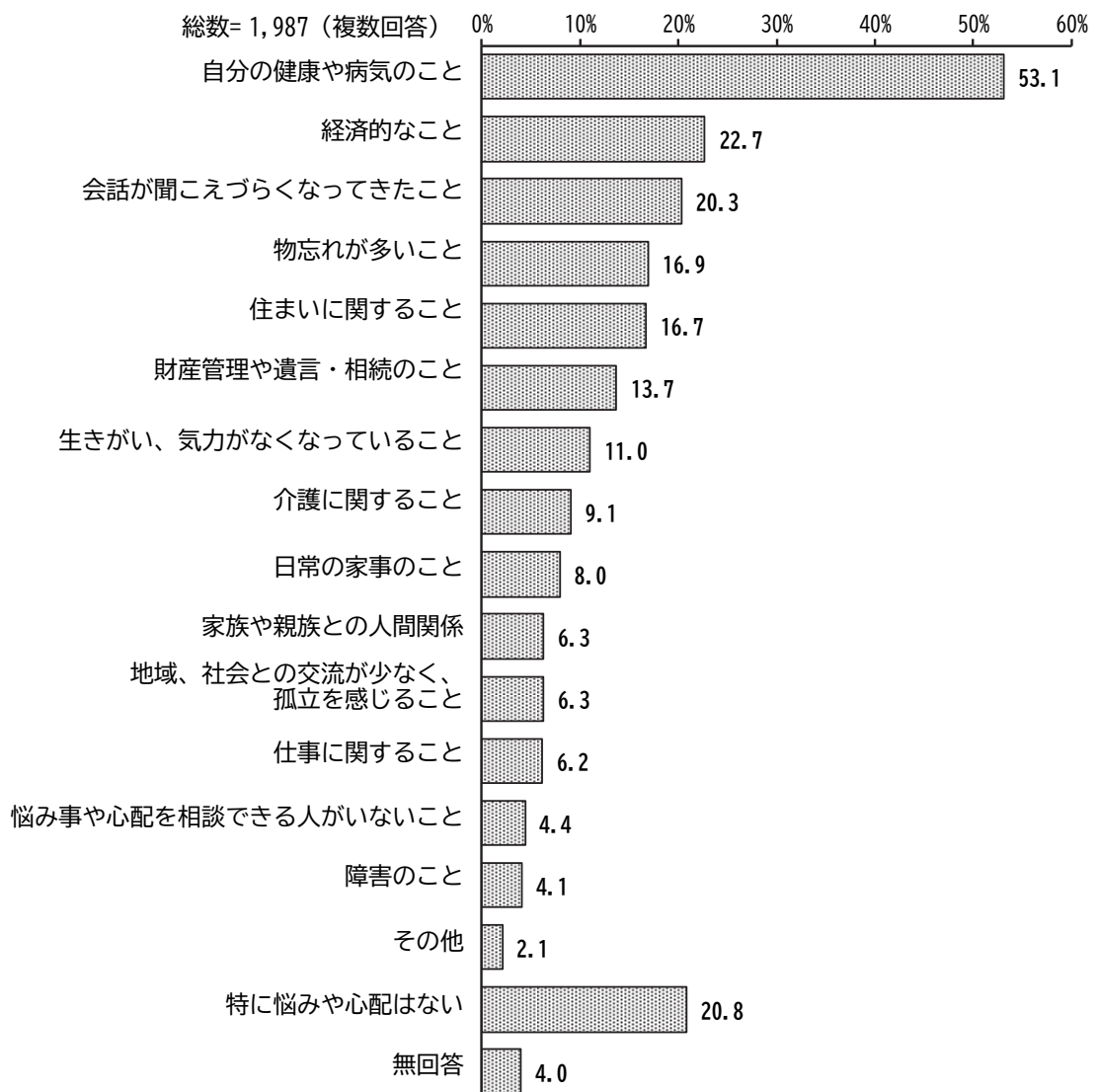
## 7 日常生活で困っていることや不安について

### (1) 日常生活上の悩み、心配

問 22 現在、日常生活を送る上で、あなた自身のことについて、どのような悩みや心配がありますか。(〇はいくつでも)

日常生活での悩みや心配は、「自分の健康や病気のこと」の割合が53.1%で最も高く、次いで「経済的なこと」が22.7%、「会話が聞こえづらくなってきたこと」が20.3%、「物忘れが多いこと」が16.9%となっている。一方で、「特に悩みや心配はない」は20.8%となっている。

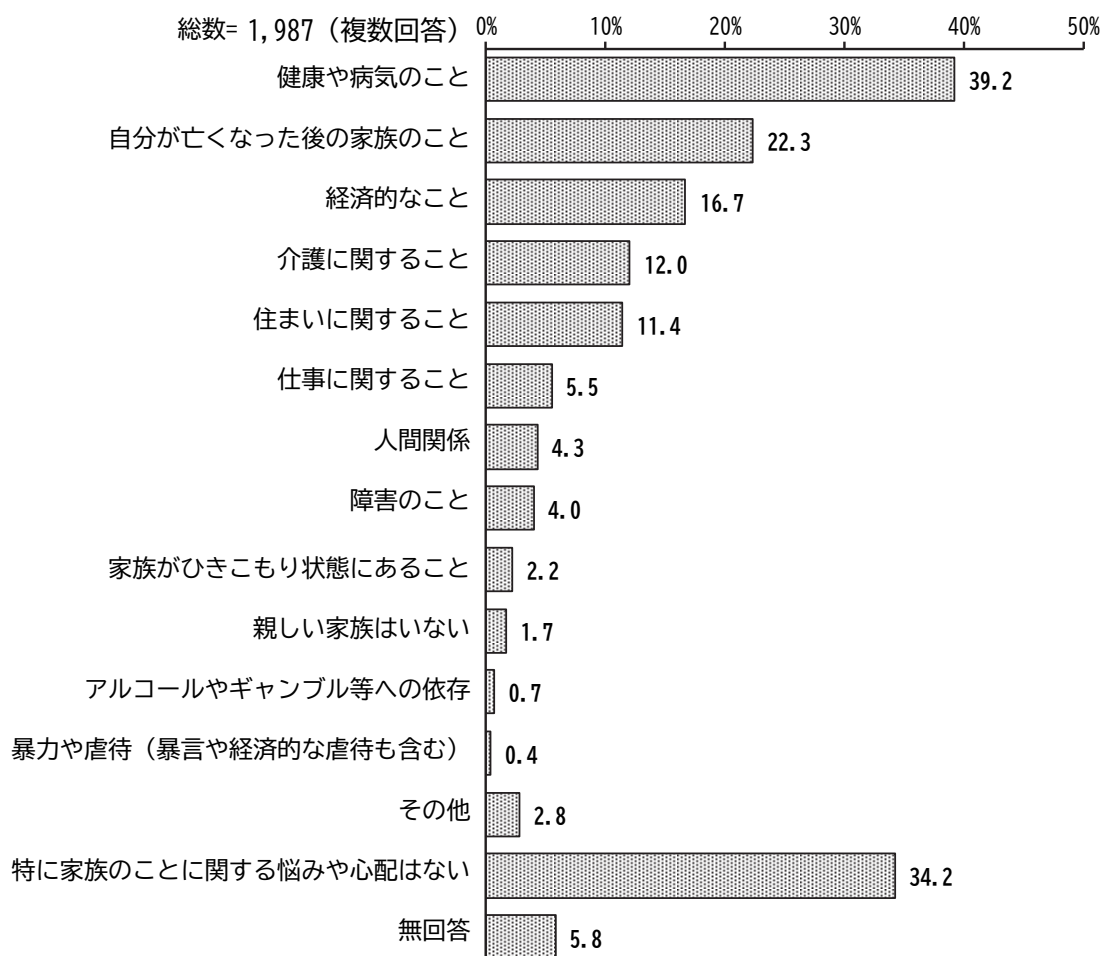
図表7-7-1 日常生活上の悩み、心配



問 23 あなたは、現在、家族（別居している家族も含む）のことについて、どのような悩みや心配がありますか。（〇はいくつでも）

家族についての悩みや心配は、「健康や病気のこと」の割合が39.2%と最も高く、次いで「自分が亡くなった後の家族のこと」が22.3%、「経済的なこと」が16.7%となっている。一方で、「特に家族のことに関する悩みや心配はない」の割合も34.2%と高くなっている。

図表7-7-2 家族についての悩み、心配

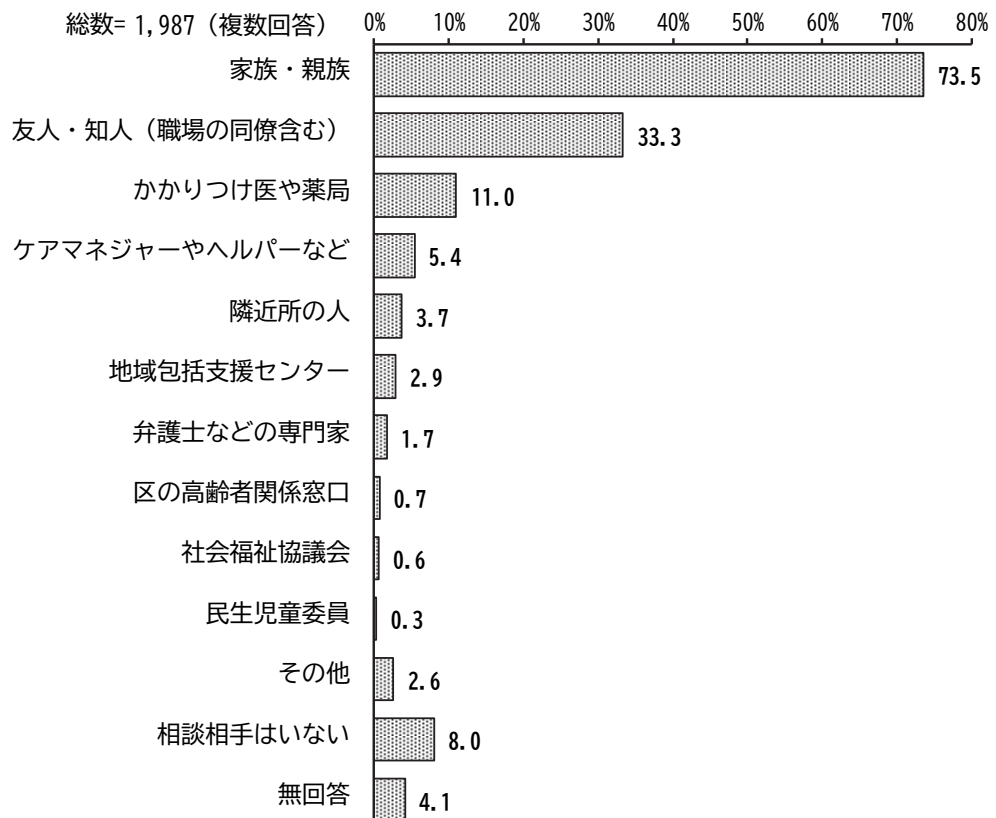


## (2) 悩みや心配の相談相手

問 24 日常生活の悩みや心配は、誰に話したり相談したりしますか。(〇はいくつでも)

悩みや心配の相談相手は、「家族・親族」の割合が73.5%と最も高く、次いで「友人・知人（職場の同僚含む）」が33.3%、「かかりつけ医や薬局」が11.0%となっている。一方で、「相談相手はいない」は8.0%となっている。

図表7-7-3 悩みや心配の相談相手

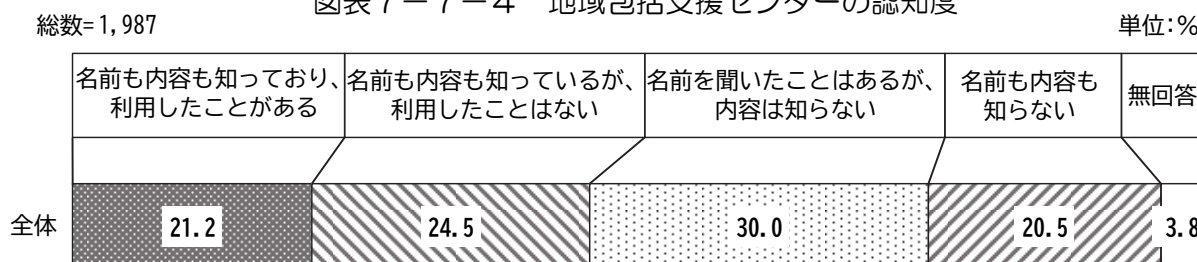


### (3) 地域包括支援センターの認知度

問 25 目黒区では、区内5か所に保健福祉の総合相談窓口「地域包括支援センター」を設置しています。あなたは「地域包括支援センター」を知っていますか。(〇は1つ)

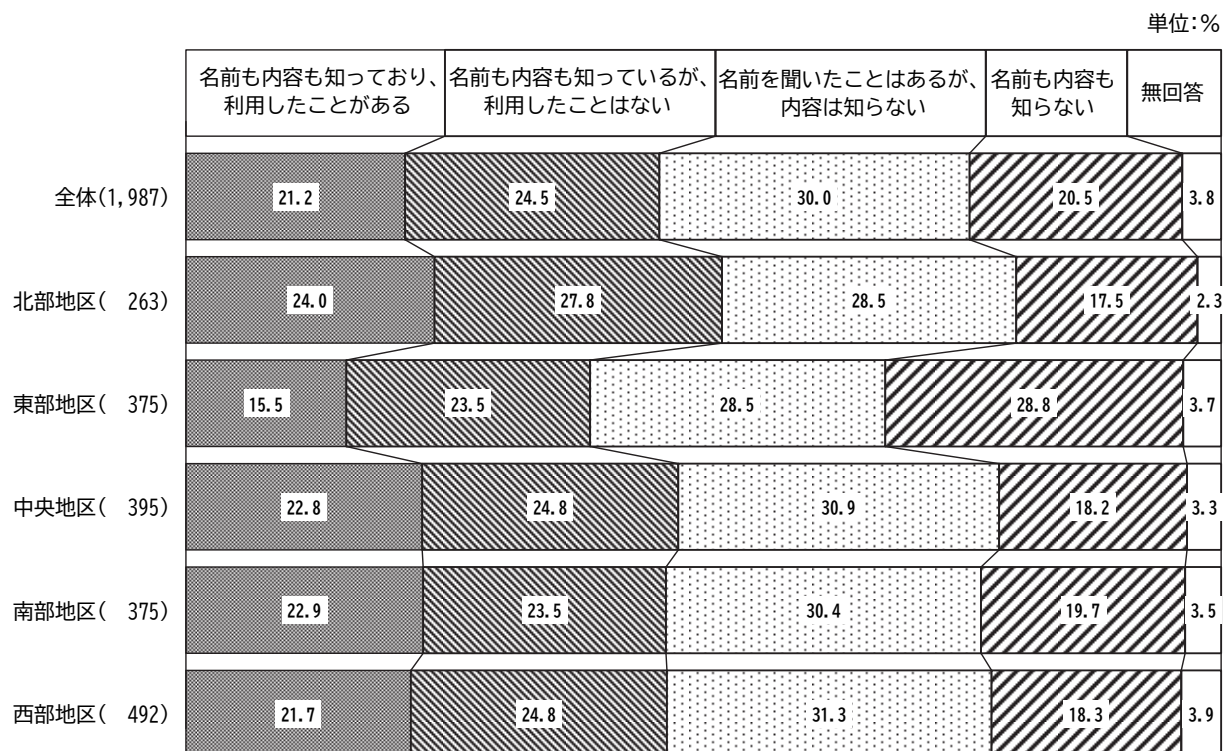
地域包括支援センターの認知度は、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が30.0%で最も高く、次いで「名前も内容も知っているが、利用したことはない」が24.5%、「名前も内容も知っており、利用したことがある」が21.2%、「名前も内容も知らない」が20.5%となっている。

図表7-7-4 地域包括支援センターの認知度 単位:%



居住地区別にみると、すべての地区で、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が高い傾向にある。「東部地区」では、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」「名前も内容も知らない」を合わせた『知らない』が57.3%とほかの地区に比べてやや高くなっている。

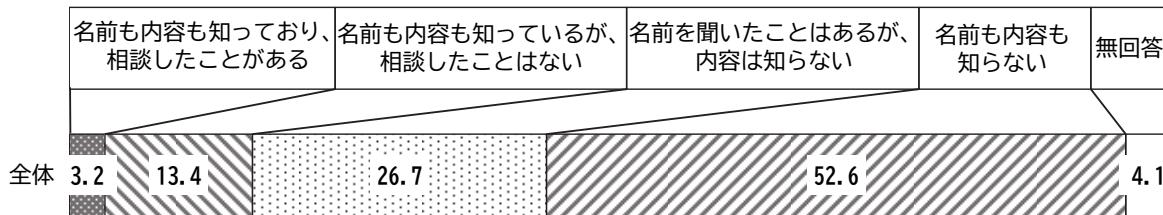
図表7-7-5 地域包括支援センターの認知度（居住地区別）



問 26 目黒区では、令和3年度から、社会福祉協議会に地域福祉の専門職「コミュニティ・ソーシャルワーカー（CSW）」を配置しています。あなたは、「コミュニティ・ソーシャルワーカー（CSW）」を知っていますか。（〇は1つ）

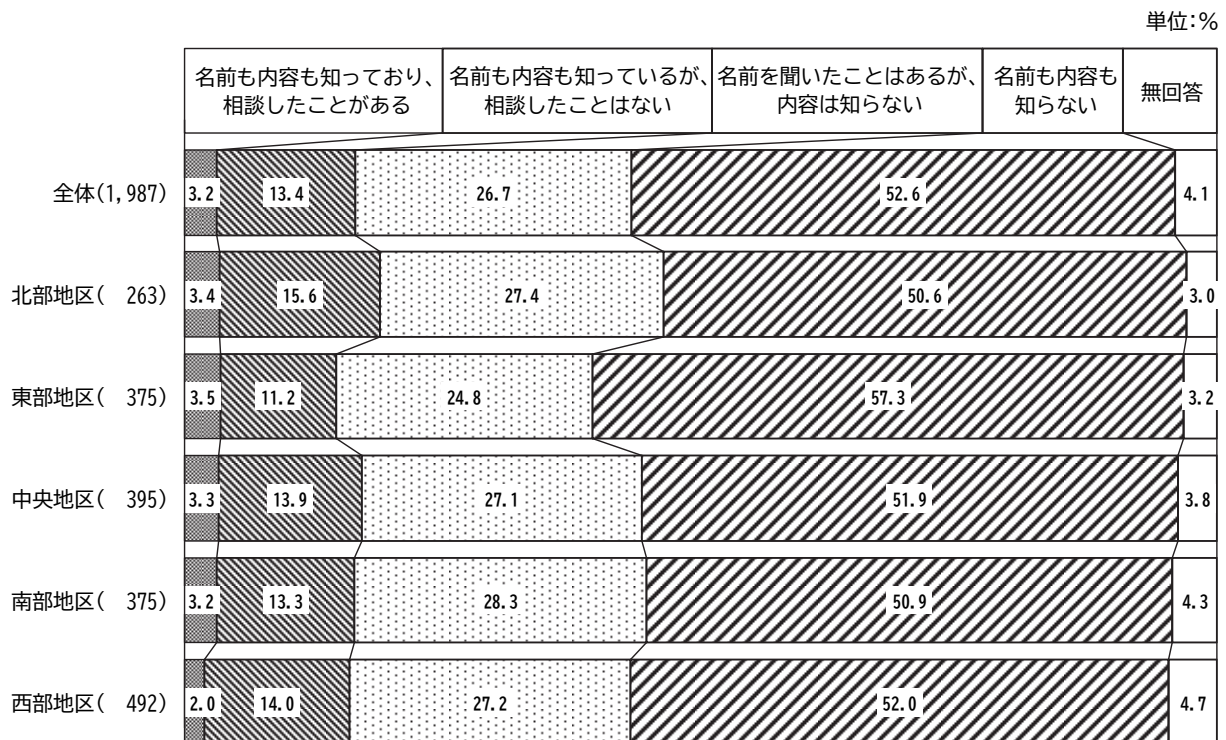
CSWの認知度は、「名前も内容も知らない」の割合が52.6%と最も高く、次いで「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」が26.7%、「名前も内容も知っているが、相談したことはない」が13.4%、「名前も内容も知っているが、相談したことがある」が3.2%となっている。

総数=1,987 図表7-7-6 コミュニティ・ソーシャルワーカーの認知度 単位:%



居住地区別にみると、どの地区も同様の傾向にあるが、東部地区では「名前も内容も知らない」の割合がやや高くなっている。

図表7-7-7 コミュニティ・ソーシャルワーカーの認知度（居住地区別）

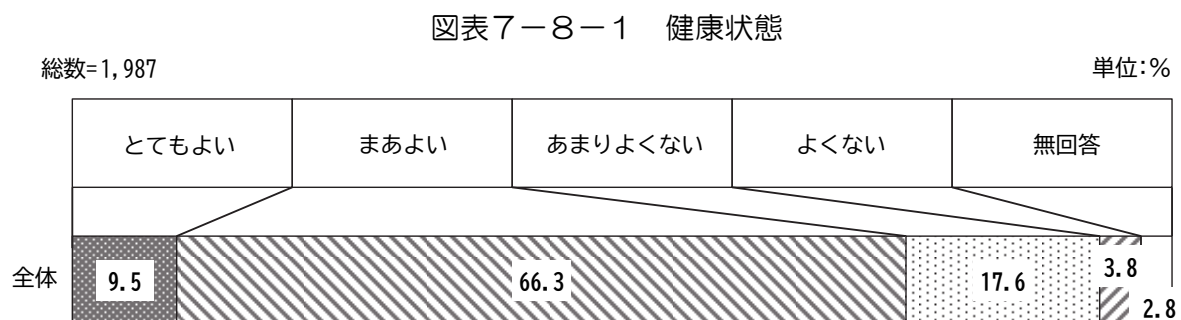


## 8 健康状態や在宅での療養などについて

### (1) 健康状態

問 27 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(〇は1つ)

健康状態では、「まあよい」の割合が66.3%で最も高く、次いで「あまりよくない」が17.6%、「とてもよい」が9.5%と続いている。





性別・年齢階級別にみると、「まあよい」の割合が男性（67.8）・女性（65.3）ともに最も高くなっている。また、男性は85歳以上、女性は80歳以上で「よくない」の割合が高くなっている。

図表7-8-2 健康状態（性別・年齢階級別）  
（上段：回答数、下段：構成比）

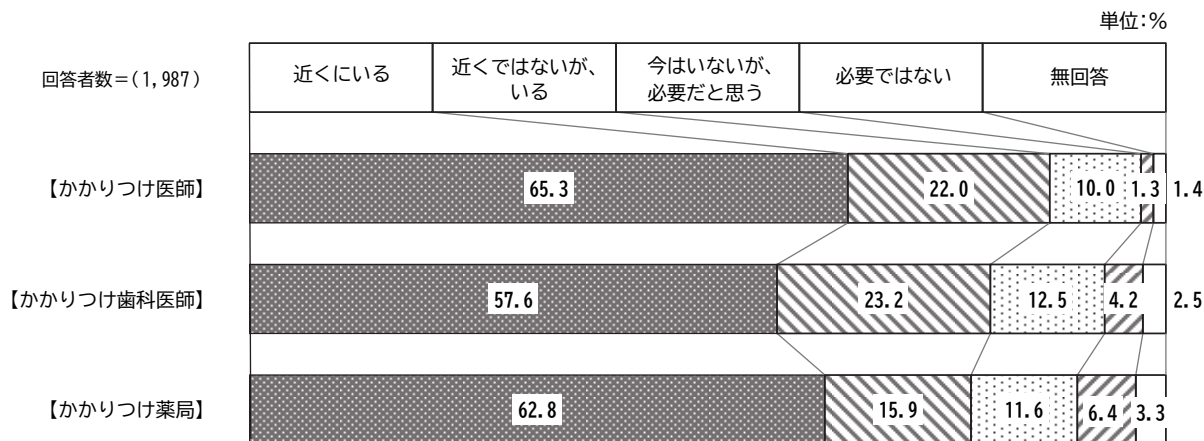
		全体	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
全体		1,987 100.0	189 9.5	1,317 66.3	350 17.6	76 3.8	55 2.8
性別・年齢階級	男性全体	820 100.0	70 8.5	556 67.8	147 17.9	31 3.8	16 2.0
	65～69歳	188 100.0	25 13.3	135 71.8	22 11.7	4 2.1	2 1.1
	70～74歳	202 100.0	15 7.4	138 68.3	39 19.3	7 3.5	3 1.5
	75～79歳	180 100.0	14 7.8	129 71.7	27 15.0	4 2.2	6 3.3
	80～84歳	128 100.0	12 9.4	82 64.1	28 21.9	4 3.1	2 1.6
	85～89歳	76 100.0	3 3.9	42 55.3	22 28.9	8 10.5	1 1.3
	90歳以上	44 100.0	1 2.3	29 65.9	9 20.5	3 6.8	2 4.5
	女性全体	1,099 100.0	114 10.4	718 65.3	190 17.3	43 3.9	34 3.1
	65～69歳	206 100.0	30 14.6	153 74.3	15 7.3	2 1.0	6 2.9
	70～74歳	254 100.0	37 14.6	165 65.0	41 16.1	7 2.8	4 1.6
	75～79歳	235 100.0	24 10.2	163 69.4	36 15.3	5 2.1	7 3.0
	80～84歳	193 100.0	15 7.8	116 60.1	43 22.3	11 5.7	8 4.1
	85～89歳	131 100.0	3 2.3	73 55.7	36 27.5	13 9.9	6 4.6
	90歳以上	77 100.0	3 3.9	47 61.0	19 24.7	5 6.5	3 3.9
	無回答	68 100.0	5 7.4	43 63.2	13 19.1	2 2.9	5 7.4

## (2) かかりつけ医師・歯科医師・薬局の有無

問 28 あなたには、かかりつけの医師などがいますか。(各項目○は1つ)

かかりつけ医師などの有無では、【かかりつけ医師】、【かかりつけ歯科医師】、【かかりつけ薬局】ともに、全体的な傾向は変わらない。「近くにいる」では、かかりつけ医師の割合が65.3%で最も多く、次いで、かかりつけ薬局が62.8%、かかりつけ歯科医師が57.6%となっている。

図表7-8-3 かかりつけ医師・歯科医師・薬局の有無



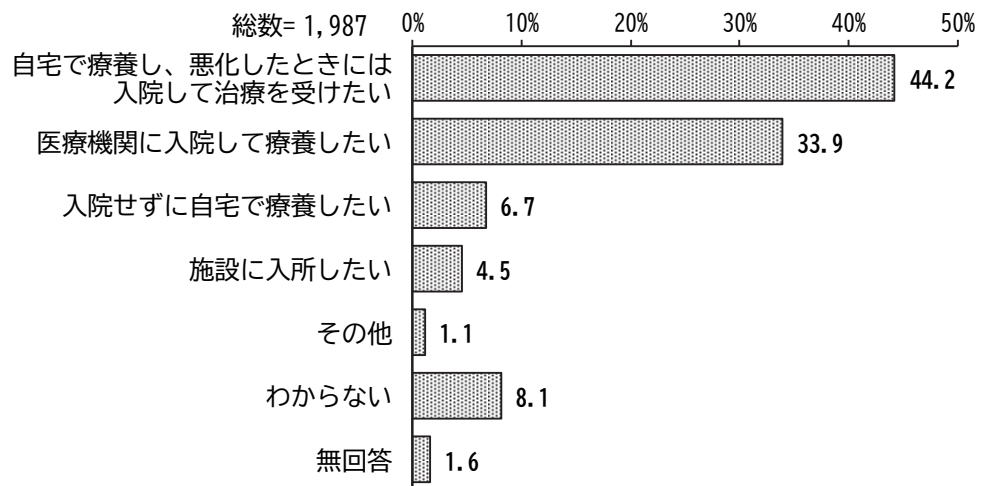
## (3) 長期療養の場所

問 29 長期の療養が必要になった場合、あなたは、どこで療養をしたいと思いますか。

(○は1つ)

長期療養の場所では、「自宅で療養し、悪化したときには入院して治療を受けたい」が44.2%で最も高く、次いで「医療機関に入院して療養したい」が33.9%、「わからない」が8.1%となっている。

図表7-8-4 長期療養の場所



性別・年齢階級別にみると、男性（47.8%）・女性（41.8%）ともに「自宅で療養し、悪化したときには入院して治療を受けたい」の割合が最も高くなっている。また、「90歳以上」では、男性（15.9%）・女性（18.2%）ともに、「入院せずに自宅で療養したい」がほかの年代に比べて高くなっている。

図表7-8-5 長期療養の場所（性別・年齢階級別）

（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	医療機関に入院して療養したい	自宅療養し、悪化したときには入院して治療を受けたい	入院せずに自宅で療養したい	施設に入所したい	その他	わからない	無回答
全体		1,987 100.0	673 33.9	878 44.2	133 6.7	90 4.5	22 1.1	160 8.1	31 1.6
性別・年齢階級	男性全体	820 100.0	282 34.4	392 47.8	50 6.1	28 3.4	7 0.9	55 6.7	6 0.7
	65～69歳	188 100.0	69 36.7	86 45.7	13 6.9	5 2.7	3 1.6	11 5.9	1 0.5
	70～74歳	202 100.0	75 37.1	92 45.5	10 5.0	9 4.5	1 0.5	15 7.4	-
	75～79歳	180 100.0	59 32.8	89 49.4	6 3.3	8 4.4	1 0.6	15 8.3	2 1.1
	80～84歳	128 100.0	45 35.2	61 47.7	7 5.5	3 2.3	-	10 7.8	2 1.6
	85～89歳	76 100.0	21 27.6	41 53.9	7 9.2	3 3.9	2 2.6	2 2.6	-
	90歳以上	44 100.0	12 27.3	22 50.0	7 15.9	-	-	2 4.5	1 2.3
	女性全体	1,099 100.0	369 33.6	459 41.8	74 6.7	59 5.4	13 1.2	103 9.4	22 2.0
	65～69歳	206 100.0	60 29.1	91 44.2	10 4.9	12 5.8	5 2.4	24 11.7	4 1.9
	70～74歳	254 100.0	96 37.8	96 37.8	15 5.9	10 3.9	3 1.2	31 12.2	3 1.2
	75～79歳	235 100.0	85 36.2	100 42.6	11 4.7	18 7.7	-	16 6.8	5 2.1
	80～84歳	193 100.0	60 31.1	83 43.0	15 7.8	9 4.7	1 0.5	21 10.9	4 2.1
	85～89歳	131 100.0	40 30.5	60 45.8	8 6.1	9 6.9	1 0.8	7 5.3	6 4.6
	90歳以上	77 100.0	27 35.1	28 36.4	14 18.2	1 1.3	3 3.9	4 5.2	-
	無回答	68 100.0	22 32.4	27 39.7	9 13.2	3 4.4	2 2.9	2 2.9	3 4.4

家族構成別にみると、どの家族構成でも「自宅で療養し、悪化したときには入院して治療を受けたい」の割合が最も高くなっている。

また、「息子・娘と同居（息子・娘は65歳以上）」では「入院せずに自宅で療養したい」の割合が15.7%、「ひとり暮らし」では「わからない」の割合が10.9%と、それぞれほかの家族構成に比べて高くなっている。

図表7-8-6 長期療養の場所（家族構成別）

（上段：回答数、下段：構成比）

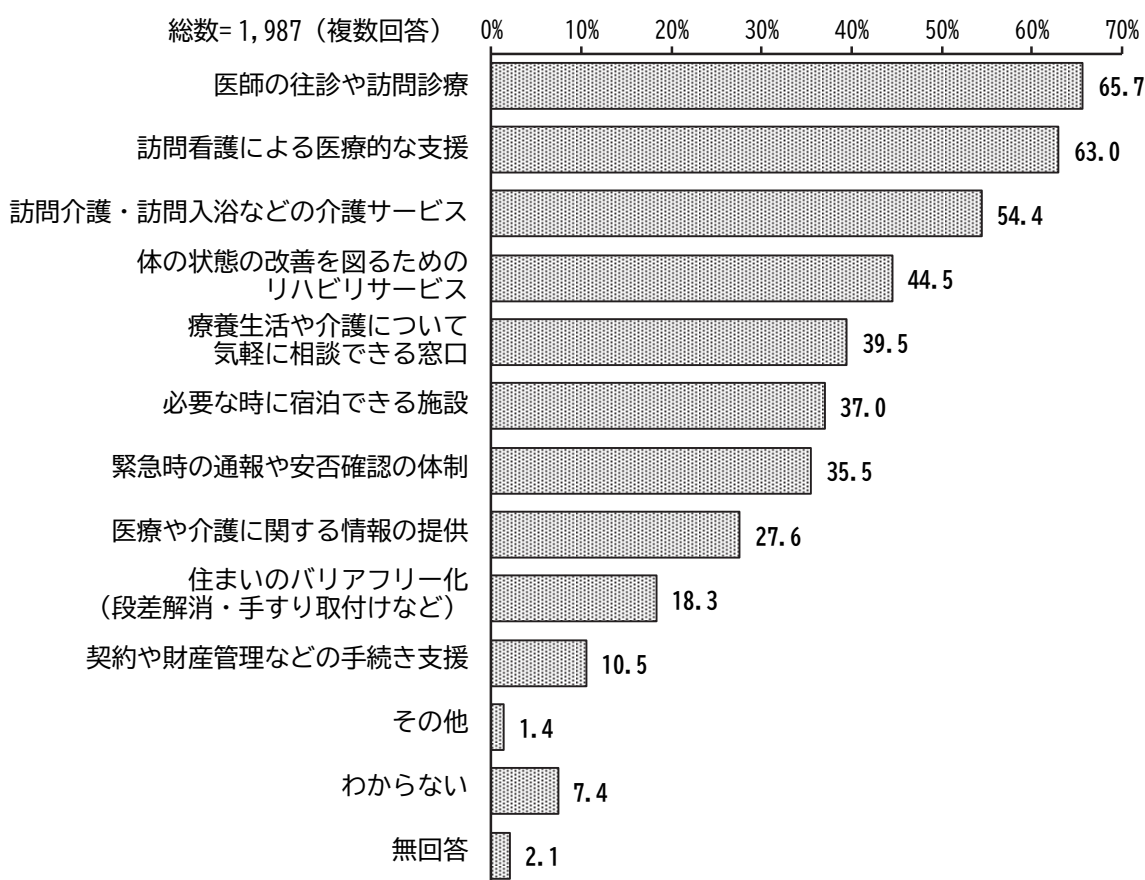
		全体	医療機関に入院して療養したい	自宅療養し、悪化したときには入院して治療を受けたい	入院せずに自宅で療養したい	施設に入所したい	その他	わからない	無回答
全体		1,987 100.0	673 33.9	878 44.2	133 6.7	90 4.5	22 1.1	160 8.1	31 1.6
家族構成	ひとり暮らし	460 100.0	156 33.9	171 37.2	42 9.1	28 6.1	5 1.1	50 10.9	8 1.7
	夫婦のみ (配偶者は65歳以上)	644 100.0	215 33.4	319 49.5	34 5.3	19 3.0	3 0.5	49 7.6	5 0.8
	夫婦のみ (配偶者は64歳以下)	96 100.0	30 31.3	46 47.9	6 6.3	3 3.1	2 2.1	4 4.2	5 5.2
	息子・娘と同居 (息子・娘は65歳以上)	51 100.0	16 31.4	21 41.2	8 15.7	2 3.9	-	3 5.9	1 2.0
	息子・娘と同居 (息子・娘は64歳以下)	486 100.0	173 35.6	215 44.2	28 5.8	27 5.6	3 0.6	35 7.2	5 1.0
	その他	155 100.0	54 34.8	66 42.6	8 5.2	7 4.5	5 3.2	12 7.7	3 1.9
	無回答	95 100.0	29 30.5	40 42.1	7 7.4	4 4.2	4 4.2	7 7.4	4 4.2

#### (4) 自宅での長期療養に必要なサービスや体制

問 30 介護が必要になったとき、もしくは、病気の後遺症などにより長期間の療養が必要になったときに、あなたは、自宅で生活をするために、どのようなサービスや体制が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

長期間の在宅療養に必要なサービス・体制では、「医師の往診や訪問診療」の割合が 65.7%で最も高く、次いで「訪問看護による医療的な支援」が 63.0%、「訪問介護・訪問入浴などの介護サービス」が 54.4%、「体の状態の改善を図るためのリハビリサービス」が 44.5%となっている。

図表 7-8-7 自宅での長期療養に必要なサービスや体制

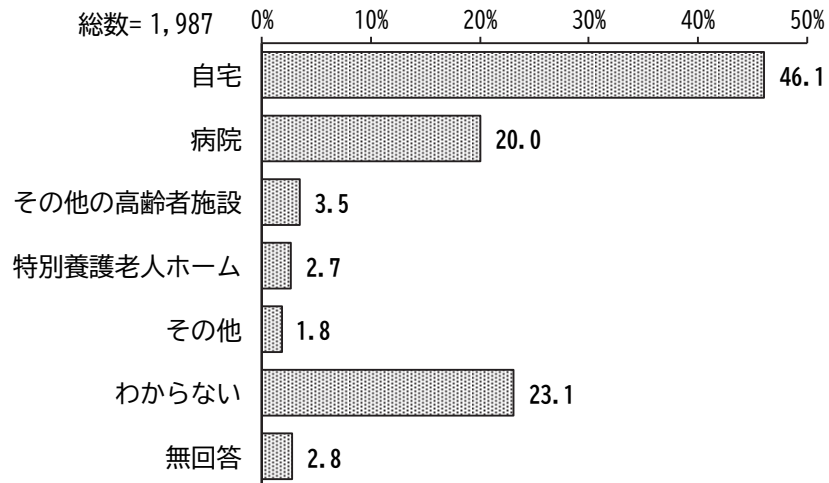


## (5) 人生の最期の場所

問31 あなたは、人生の最期をどこで迎えたいと思いますか。(〇は1つ)

人生の最期の場所では、「自宅」の割合が46.1%で最も高く、次いで「わからない」が23.1%、「病院」が20.0%、「その他の高齢者施設」が3.5%となっている。

図表7-8-8 人生の最期の場所



性別・年齢階級別にみると、「自宅」の割合が最も高く、男性（52.3%）が女性（41.6%）を上回っている。また、女性の「65～69歳」では、「わからない」が38.8%と、他の年代に比べ高くなっている。

図表7-8-9 人生の最期の場所（性別・年齢階級別）

（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	自宅	病院	特別養護老人ホーム	その他の高齢者施設	その他	わからない	無回答
全体		1,987 100.0	917 46.1	397 20.0	54 2.7	69 3.5	35 1.8	459 23.1	56 2.8
性別・年齢階級	男性全体	820 100.0	429 52.3	152 18.5	18 2.2	21 2.6	21 2.6	165 20.1	14 1.7
	65～69歳	188 100.0	88 46.8	31 16.5	3 1.6	9 4.8	6 3.2	48 25.5	3 1.6
	70～74歳	202 100.0	93 46.0	38 18.8	8 4.0	4 2.0	6 3.0	52 25.7	1 0.5
	75～79歳	180 100.0	98 54.4	34 18.9	4 2.2	6 3.3	5 2.8	30 16.7	3 1.7
	80～84歳	128 100.0	74 57.8	25 19.5	1 0.8	2 1.6	3 2.3	20 15.6	3 2.3
	85～89歳	76 100.0	49 64.5	14 18.4	2 2.6	-	1 1.3	10 13.2	-
	90歳以上	44 100.0	26 59.1	9 20.5	-	-	-	5 11.4	4 9.1
	女性全体	1,099 100.0	457 41.6	235 21.4	34 3.1	43 3.9	12 1.1	280 25.5	38 3.5
	65～69歳	206 100.0	74 35.9	29 14.1	5 2.4	9 4.4	2 1.0	80 38.8	7 3.4
	70～74歳	254 100.0	100 39.4	53 20.9	7 2.8	11 4.3	4 1.6	75 29.5	4 1.6
	75～79歳	235 100.0	88 37.4	51 21.7	15 6.4	12 5.1	5 2.1	53 22.6	11 4.7
	80～84歳	193 100.0	82 42.5	57 29.5	6 3.1	5 2.6	-	36 18.7	7 3.6
	85～89歳	131 100.0	65 49.6	33 25.2	1 0.8	6 4.6	1 0.8	20 15.3	5 3.8
	90歳以上	77 100.0	46 59.7	12 15.6	-	-	-	16 20.8	3 3.9
無回答	68 100.0	31 45.6	10 14.7	2 2.9	5 7.4	2 2.9	14 20.6	4 5.9	



家族構成別にみると、すべての家族構成で「自宅」の割合が最も高く、中でも「息子・娘と同居（息子・娘は65歳以上）」では60.8%となっている。また「ひとり暮らし」では、「病院」が23.3%とほかの家族構成と比べて高くなっている。

図表7-8-10 人生の最期の場所（家族構成別）

（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	自宅	病院	特別養護老人ホーム	その他の高齢者施設	その他	わからない	無回答
全体		1,987 100.0	917 46.1	397 20.0	54 2.7	69 3.5	35 1.8	459 23.1	56 2.8
家族構成	ひとり暮らし	460 100.0	179 38.9	107 23.3	13 2.8	18 3.9	10 2.2	118 25.7	15 3.3
	夫婦のみ （配偶者は65歳以上）	644 100.0	322 50.0	122 18.9	12 1.9	19 3.0	12 1.9	143 22.2	14 2.2
	夫婦のみ （配偶者は64歳以下）	96 100.0	43 44.8	18 18.8	2 2.1	5 5.2	1 1.0	21 21.9	6 6.3
	息子・娘と同居 （息子・娘は65歳以上）	51 100.0	31 60.8	10 19.6	1 2.0	1 2.0	-	7 13.7	1 2.0
	息子・娘と同居 （息子・娘は64歳以下）	486 100.0	236 48.6	102 21.0	15 3.1	16 3.3	6 1.2	101 20.8	10 2.1
	その他	155 100.0	58 37.4	26 16.8	7 4.5	5 3.2	4 2.6	49 31.6	6 3.9
	無回答	95 100.0	48 50.5	12 12.6	4 4.2	5 5.3	2 2.1	20 21.1	4 4.2

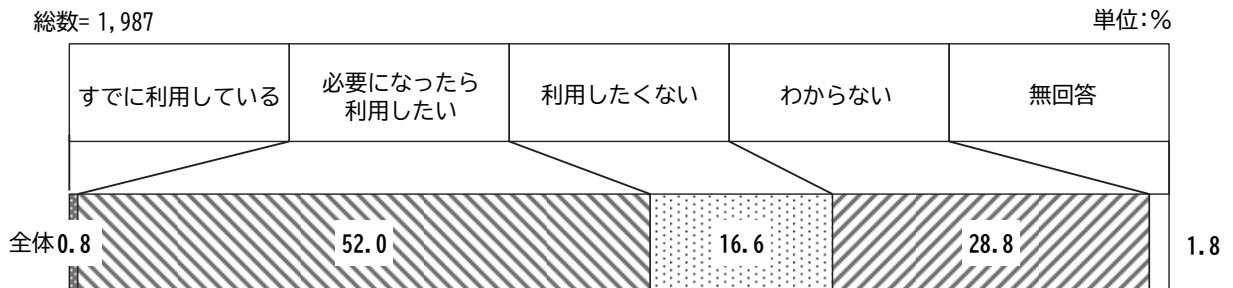
## 9 権利擁護について

### (1) 成年後見制度利用の意向

問 32 認知症などにより判断能力が十分でない人の権利を守る「成年後見」という制度があります。あなたやご家族が、判断能力が十分でなくなってきた場合に、「成年後見制度」を利用したいと思いますか。(〇は1つ)

成年後見制度の利用意向は、「必要になったら利用したい」の割合が52.0%で最も高く、次いで「わからない」が28.8%、「利用したくない」が16.6%、「すでに利用している」は0.8%となっている。

図表7-9-1 成年後見制度利用の意向



性別・年齢階級別にみると、「必要になったら利用したい」で、男性が56.3%、女性が49.2%と、男性が女性を上回っている。また女性の「90歳以上」では、「必要になったら利用したい」は28.6%と、ほかの年代と比べて低い割合となっている。

図表7-9-2 成年後見制度利用の意向（性別・年齢階級別）  
（上段：回答数、下段：構成比）

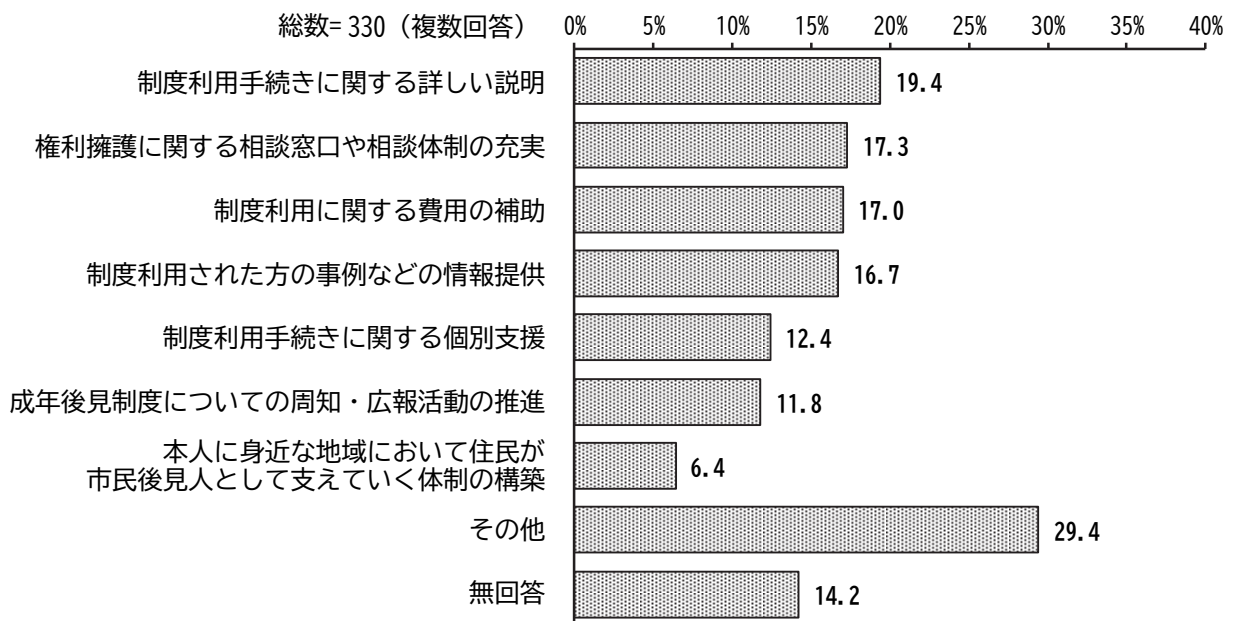
		全体	すでに利用している	必要になったら利用したい	利用したくない	わからない	無回答
全体		1,987 100.0	16 0.8	1,033 52.0	330 16.6	572 28.8	36 1.8
性別・年齢階級	男性全体	820 100.0	3 0.4	462 56.3	127 15.5	217 26.5	11 1.3
	65～69歳	188 100.0	1 0.5	110 58.5	18 9.6	57 30.3	2 1.1
	70～74歳	202 100.0	- -	118 58.4	27 13.4	56 27.7	1 0.5
	75～79歳	180 100.0	1 0.6	97 53.9	37 20.6	42 23.3	3 1.7
	80～84歳	128 100.0	- -	74 57.8	24 18.8	28 21.9	2 1.6
	85～89歳	76 100.0	- -	39 51.3	17 22.4	19 25.0	1 1.3
	90歳以上	44 100.0	1 2.3	23 52.3	4 9.1	14 31.8	2 4.5
	女性全体	1,099 100.0	12 1.1	541 49.2	191 17.4	333 30.3	22 2.0
	65～69歳	206 100.0	2 1.0	110 53.4	23 11.2	67 32.5	4 1.9
	70～74歳	254 100.0	5 2.0	135 53.1	40 15.7	74 29.1	- -
	75～79歳	235 100.0	2 0.9	115 48.9	44 18.7	69 29.4	5 2.1
	80～84歳	193 100.0	1 0.5	92 47.7	42 21.8	53 27.5	5 2.6
	85～89歳	131 100.0	2 1.5	65 49.6	24 18.3	38 29.0	2 1.5
	90歳以上	77 100.0	- -	22 28.6	17 22.1	32 41.6	6 7.8
	無回答	68 100.0	1 1.5	30 44.1	12 17.6	22 32.4	3 4.4

問 33 問 32 で「3.利用したくない」と回答した方におたずねします。

どのような支援があったら、成年後見制度を利用したいと思いますか。(〇はいくつでも)

成年後見制度利用のための支援については、「制度利用手続きに関する詳しい説明」の割合が 19.4%で最も高く、次いで「権利擁護に関する相談窓口や相談体制の充実」が 17.3%、「制度利用に関する費用の補助」が 17.0%、「制度利用された方の事例などの情報提供」が 16.7%となっている。

図表 7-9-3 成年後見制度利用のための支援



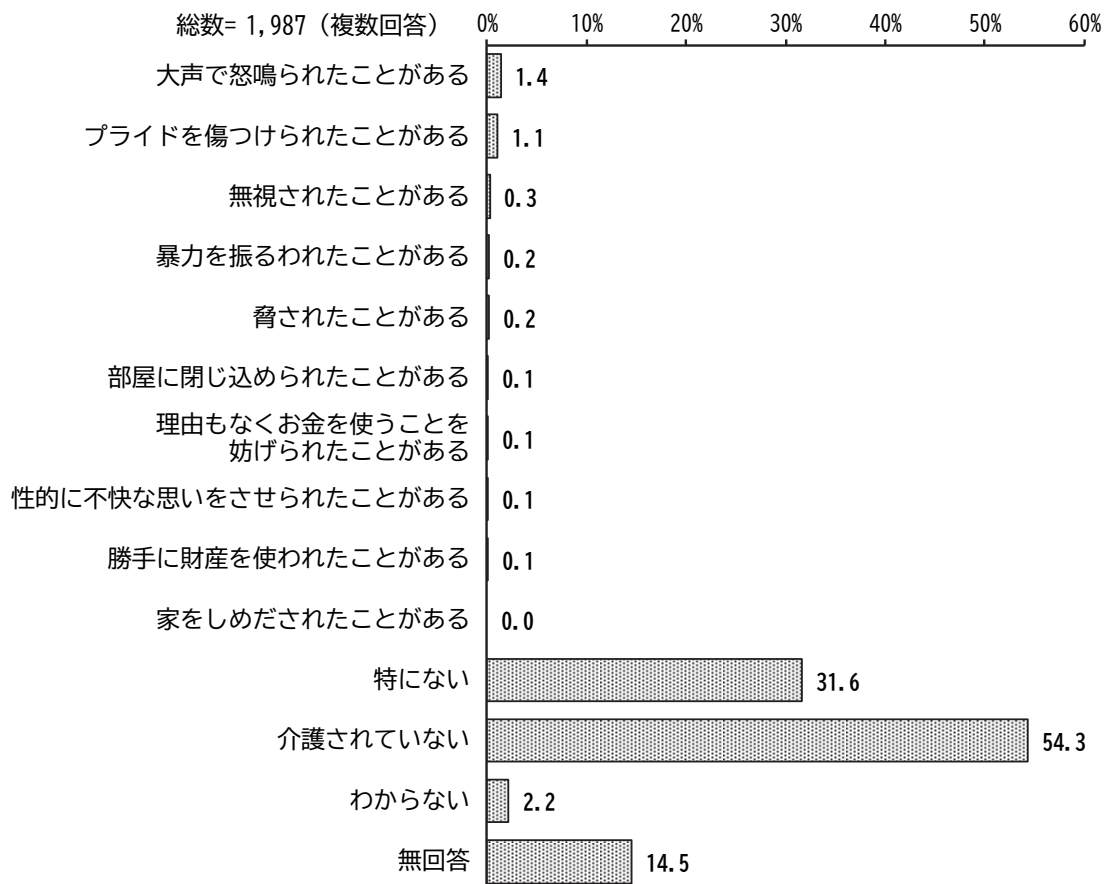
## (2) 介護者からの虐待

問34 あなたは、介護者（家族、介護サービス事業者など）から次のようなことをされたことがありますか。（〇はいくつでも）

介護者からの虐待では、「特にない」と「介護されていない」を合わせた『介護者からの虐待経験はない』の割合は、全体の85.9%となっている。

一方で、「大声で怒鳴られたことがある」の割合が1.4%、「プライドを傷つけられたことがある」が1.1%、「無視されたことがある」が0.3%、「暴力を振るわれたことがある」と「脅されたことがある」がともに0.2%となっている。

図表7-9-4 介護者からの虐待



### (3) 虐待を受けたときの相談相手

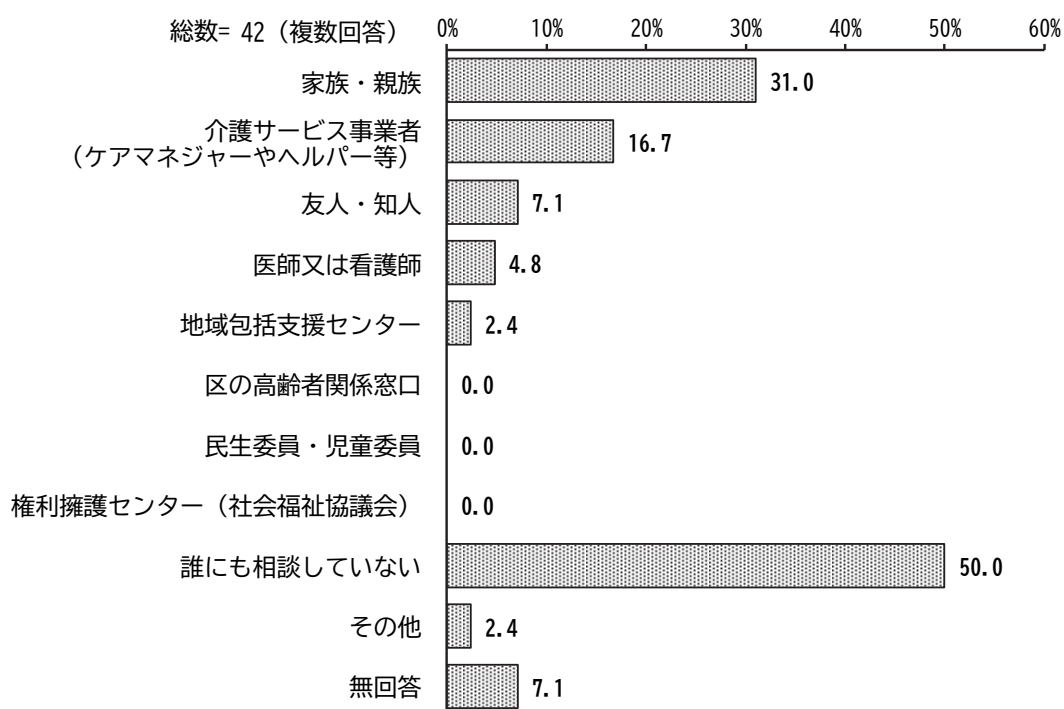
【問 34 で「1」～「10」のいずれかを回答した方におたずねします。】

問 35 これらの行為を受けたとき、誰（どのようなところ）に相談しましたか。

(〇はいくつでも)

虐待を受けたときの相談相手については、「誰にも相談していない」の割合が 50.0%で最も高く、次いで「家族・親族」が 31.0%、「介護サービス事業者（ケアマネジャーやヘルパー等）」が 16.7%、「友人・知人」が 7.1%となっている。

図表 7-9-5 虐待を受けたときの相談相手



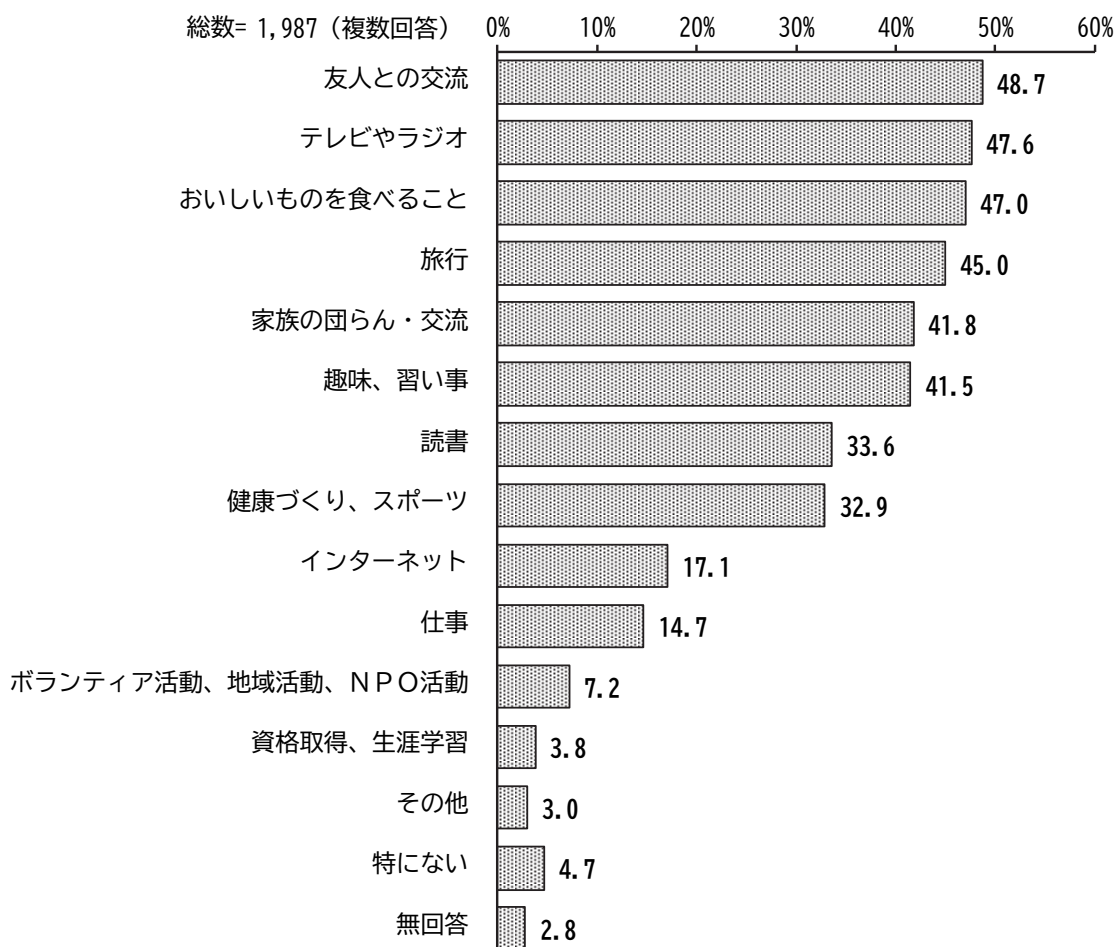
## 10 生きがい、社会参加について

### (1) 楽しみや生きがい

問36 あなたにとっての楽しみや生きがいは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

楽しみや生きがいについては、「友人との交流」の割合が48.7%で最も高く、次いで「テレビやラジオ」が47.6%、「おいしいものを食べること」が47.0%、「旅行」が45.0%、「家族の団らん・交流」が41.8%などとなっている。

図表7-10-1 楽しみや生きがい



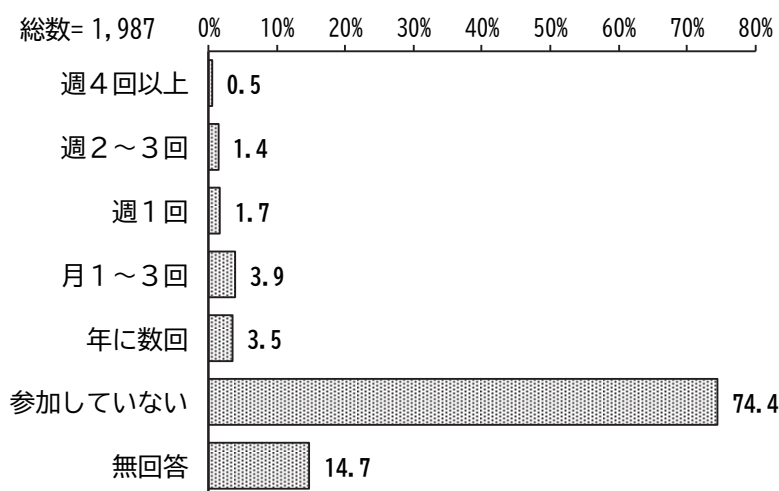
## (2) 会・グループ等への参加頻度

問37 あなたは、以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。  
(〇は1つ)

### 【ボランティアのグループ】

「参加していない」の割合が74.4%で最も高く、次いで「月1～3回」が3.9%、「年に数回」が3.5%、「週1回」が1.7%となっている。

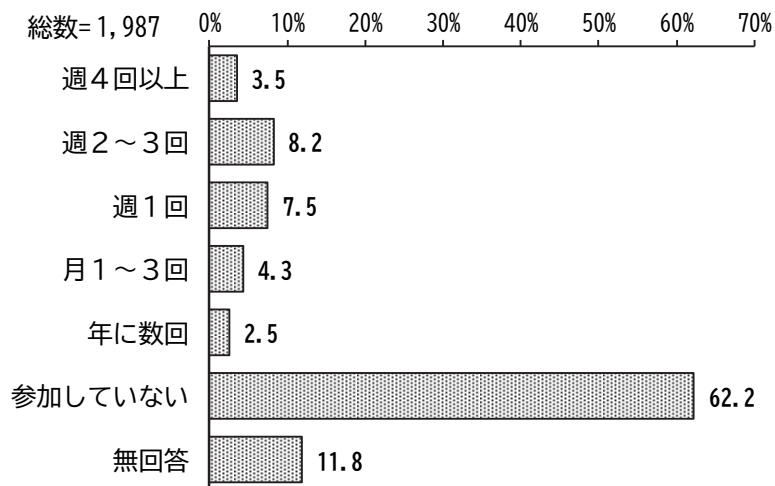
図表7-10-2 ボランティアのグループへの参加頻度



### 【スポーツ関係のグループやクラブ】

「参加していない」の割合が62.2%で最も高く、次いで「週2～3回」が8.2%、「週1回」が7.5%、「月1～3回」が4.3%となっている。

図表7-10-3 スポーツ関係のグループやクラブへの参加頻度

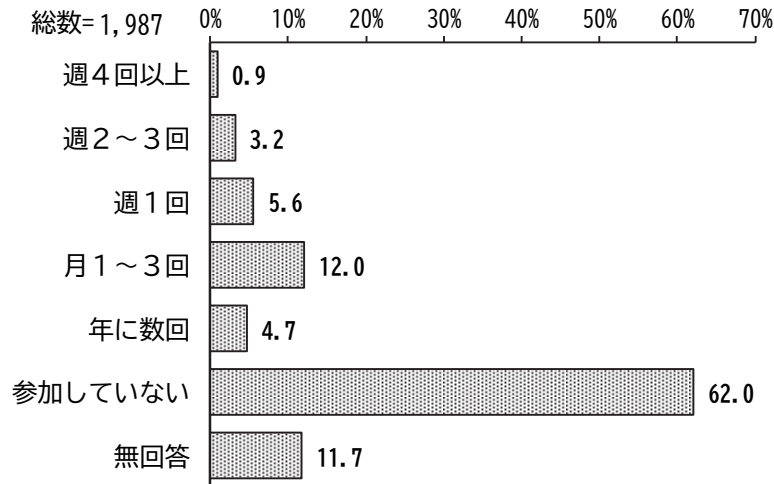




【趣味関係のグループ】

「参加していない」の割合が62.0%で最も高く、次いで「月1～3回」が12.0%、「週1回」が5.6%、「年に数回」が4.7%となっている。

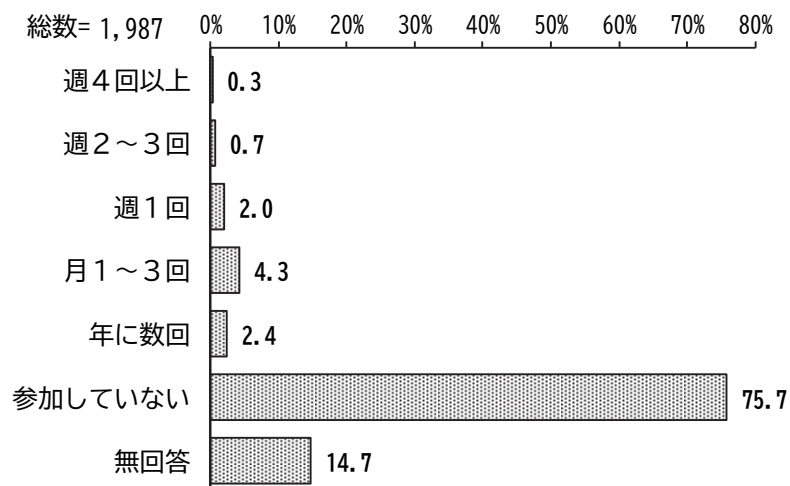
図表7-10-4 趣味関係のグループへの参加頻度



【学習・教養サークル】

「参加していない」の割合が75.7%で最も高く、次いで「月1～3回」が4.3%、「年に数回」が2.4%、「週1回」が2.0%となっている。

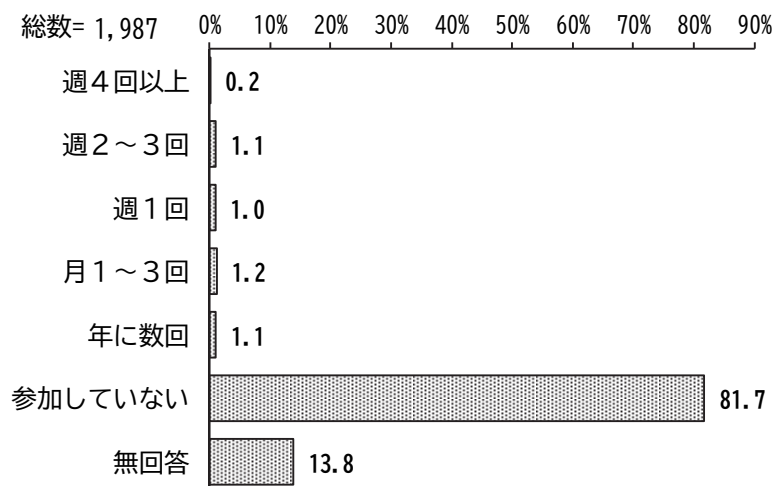
図表7-10-5 学習・教養サークルへの参加頻度



【老人クラブ】

「参加していない」の割合が81.7%で最も高く、次いで「月1～3回」が1.2%、「週2～3回」と「年に数回」がともに1.1%となっている。

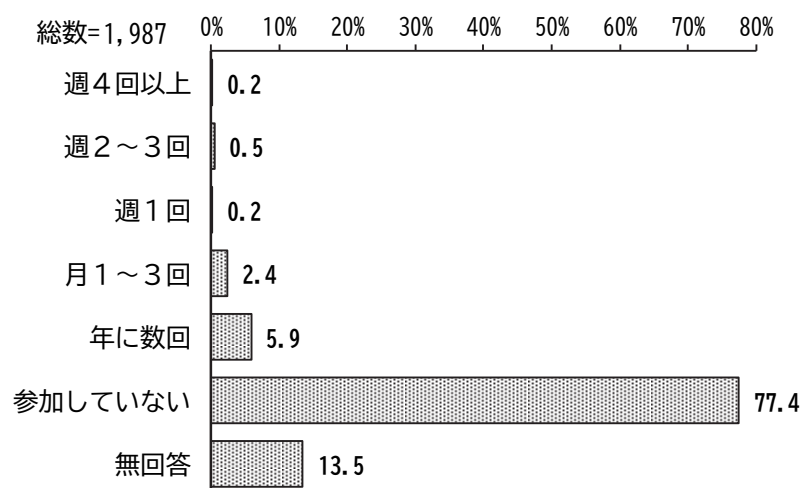
図表7-10-6 老人クラブへの参加頻度



【町会・自治会、住区住民会議】

「参加していない」の割合が77.4%で最も高く、次いで「年に数回」が5.9%、「月1～3回」が2.4%、「週2～3回」が0.5%となっている。

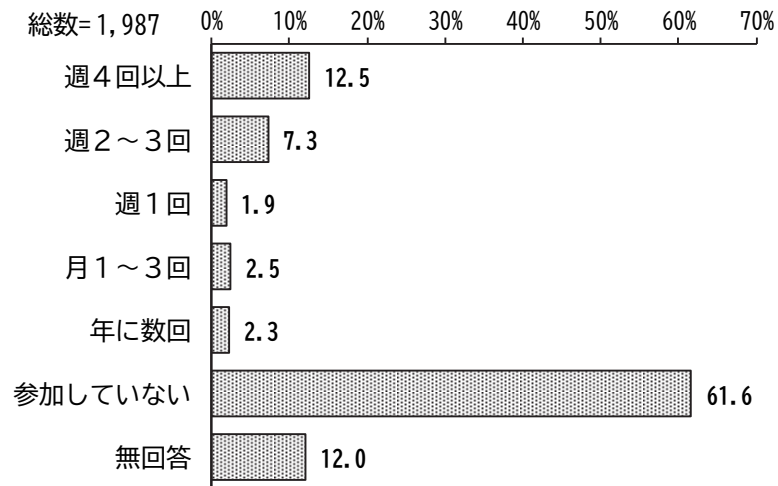
図表7-10-7 町会・自治会、住区住民会議への参加頻度



【収入のある仕事】

「参加していない」が61.6%で最も高く、次いで「週4回以上」が12.5%、「週2～3回」が7.3%、「月1～3回」が2.5%となっている。

図表7-10-8 収入のある仕事への参加頻度

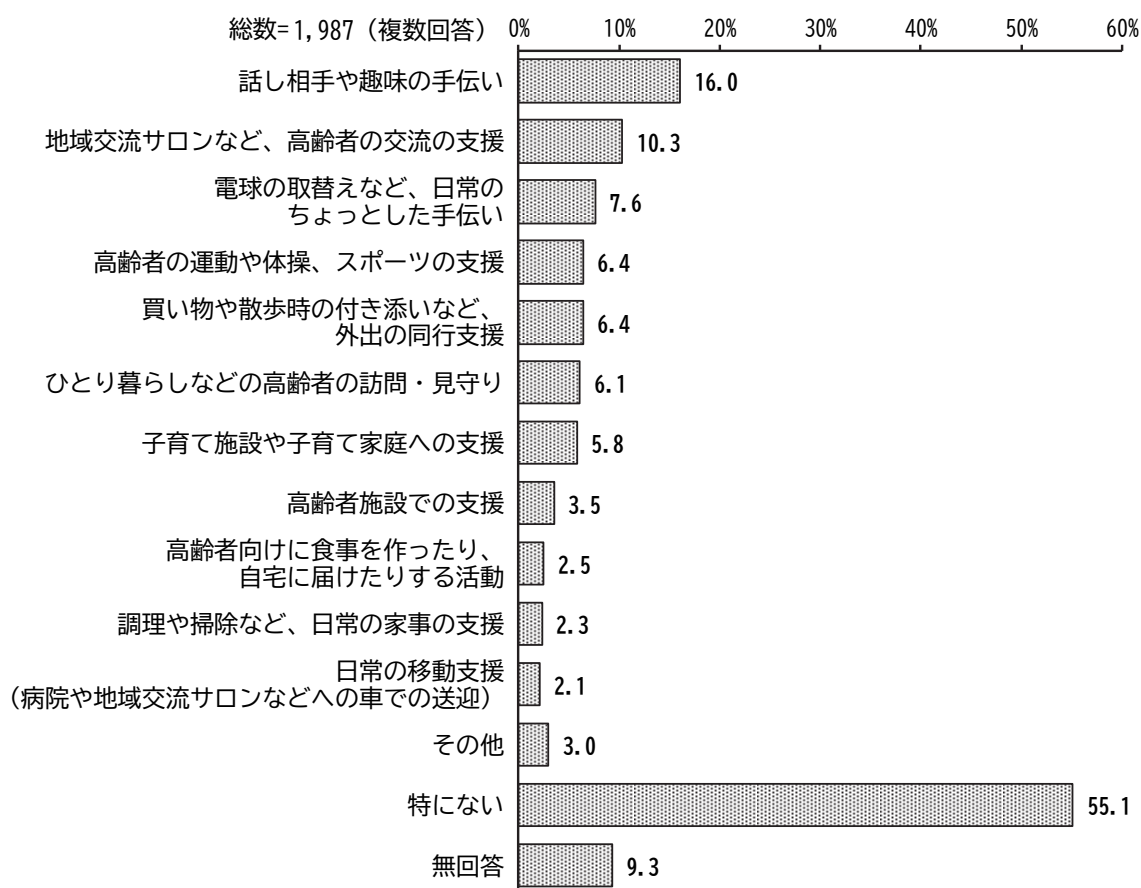


### (3) 参加したい、参加してもよいボランティア活動

問 38 以下のようなボランティア活動で、「参加したい」、又は「参加してもよい」と考えるものはどれですか。(〇はいくつでも)

参加したい、参加してもよいボランティア活動では、「特にない」の割合が55.1%で最も高く、次いで「話し相手や趣味の手伝い」が16.0%、「地域交流サロンなど、高齢者の交流の支援」が10.3%、「電球の取替えなど、日常のちょっとした手伝い」が7.6%となっている。

図表7-10-9 参加したい、参加してもよいボランティア活動



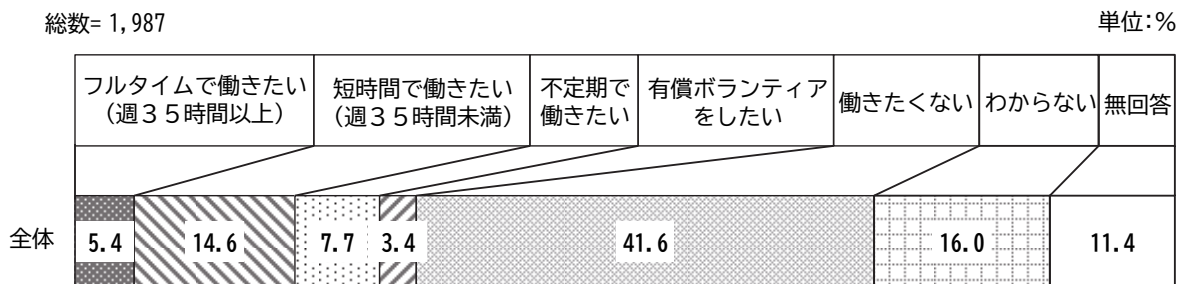
## 11 就労意向について

### (1) 今後の就労意向

問 39 あなたは今後働きたいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。  
(○は1つ)

今後の就労意向については、「働きたくない」の割合が41.6%で最も高く、次いで「わからない」が16.0%、「短時間で働きたい(週35時間未満)」が14.6%、「不定期で働きたい」が7.7%となっている。

図表7-11-1 今後の就労意向



性別・年齢階級別にみると、「働きたくない」の割合が男性（38.4%）・女性（44.5%）ともに最も高く、女性が男性を上回っている。「65～69歳」では、男性・女性ともに「短時間で働きたい（週35時間未満）」の割合が最も高くなっているが、70歳以降は加齢とともに就労意欲は減少する傾向がみられる。

図表7-11-2 今後の就労意向（性別・年齢階級別）

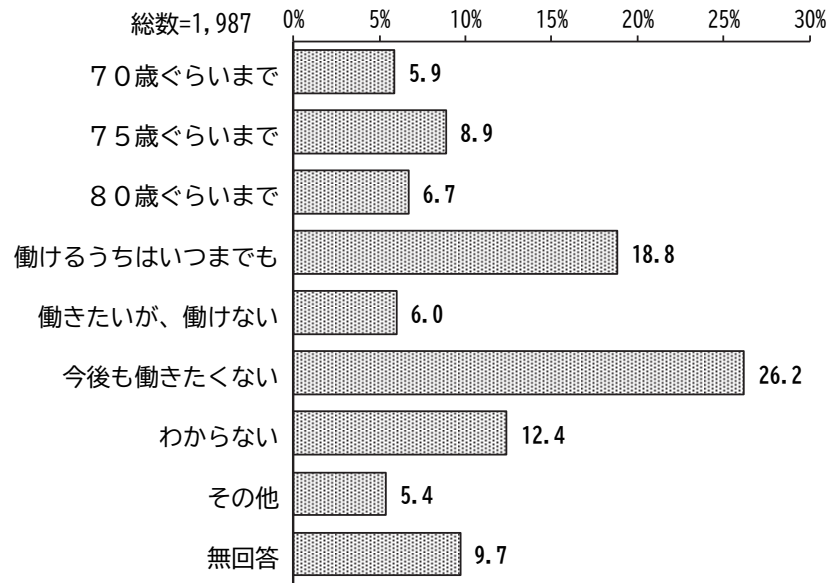
（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	フルタイムで働きたい (週35時間以上)	短時間で働きたい (週35時間未満)	不 定期 で 働 き たい	有 償 ボ ラ ン テ ィ ア を し た い	働 き た く な い	わ か ら な い	無 回 答
全体		1,987 100.0	108 5.4	290 14.6	153 7.7	67 3.4	826 41.6	317 16.0	226 11.4
性別・年齢階級	男性全体	820 100.0	81 9.9	146 17.8	83 10.1	29 3.5	315 38.4	106 12.9	60 7.3
	65～69歳	188 100.0	41 21.8	59 31.4	27 14.4	6 3.2	35 18.6	16 8.5	4 2.1
	70～74歳	202 100.0	22 10.9	41 20.3	26 12.9	7 3.5	66 32.7	28 13.9	12 5.9
	75～79歳	180 100.0	14 7.8	30 16.7	16 8.9	8 4.4	80 44.4	21 11.7	11 6.1
	80～84歳	128 100.0	4 3.1	11 8.6	10 7.8	4 3.1	64 50.0	21 16.4	14 10.9
	85～89歳	76 100.0	-	3 3.9	2 2.6	3 3.9	45 59.2	13 17.1	10 13.2
	90歳以上	44 100.0	-	2 4.5	2 4.5	1 2.3	24 54.5	6 13.6	9 20.5
	女性全体	1,099 100.0	24 2.2	131 11.9	66 6.0	36 3.3	489 44.5	198 18.0	155 14.1
	65～69歳	206 100.0	15 7.3	58 28.2	26 12.6	13 6.3	49 23.8	37 18.0	8 3.9
	70～74歳	254 100.0	4 1.6	40 15.7	24 9.4	12 4.7	103 40.6	51 20.1	20 7.9
	75～79歳	235 100.0	4 1.7	23 9.8	11 4.7	7 3.0	120 51.1	41 17.4	29 12.3
	80～84歳	193 100.0	1 0.5	7 3.6	3 1.6	3 1.6	105 54.4	35 18.1	39 20.2
	85～89歳	131 100.0	-	3 2.3	2 1.5	1 0.8	70 53.4	18 13.7	37 28.2
	90歳以上	77 100.0	-	-	-	-	42 54.5	15 19.5	20 26.0
	無回答	68 100.0	3 4.4	13 19.1	4 5.9	2 2.9	22 32.4	13 19.1	11 16.2

問40 あなたは、何歳ごろまで収入を伴う仕事をしたいですか。(〇は1つ)

何歳ごろまで収入を伴う仕事をしたいかは、「今後も働きたくない」の割合が26.2%で最も高く、次いで「働けるうちはいつまでも」が18.8%、「わからない」が12.4%、「75歳ぐらいまで」が8.9%となっている。

図表7-11-3 何歳まで収入を伴う仕事をしたいか

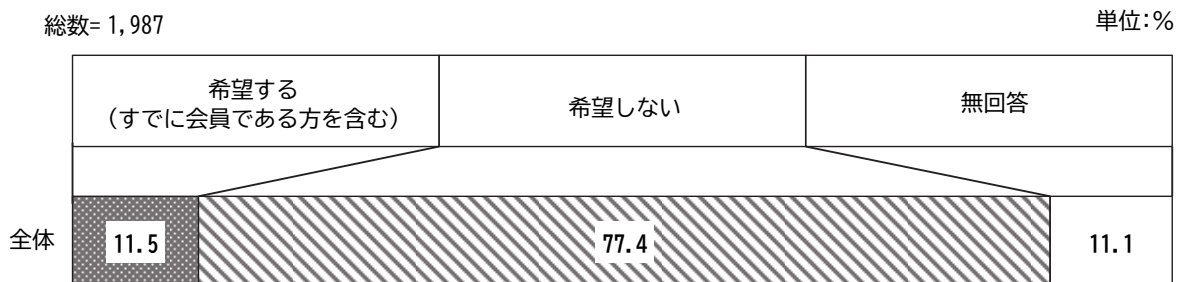


## (2) シルバー人材センターでの就労意向

問 41 あなたは、今後、シルバー人材センターの会員となり、仕事をしたいと思いますか。  
(○は1つ)

シルバー人材センターでの就労意向は、「希望しない」の割合が 77.4%で最も高く、「希望する」の 11.5%を大幅に上回っている。

図表 7-11-4 シルバー人材センターでの就労意向

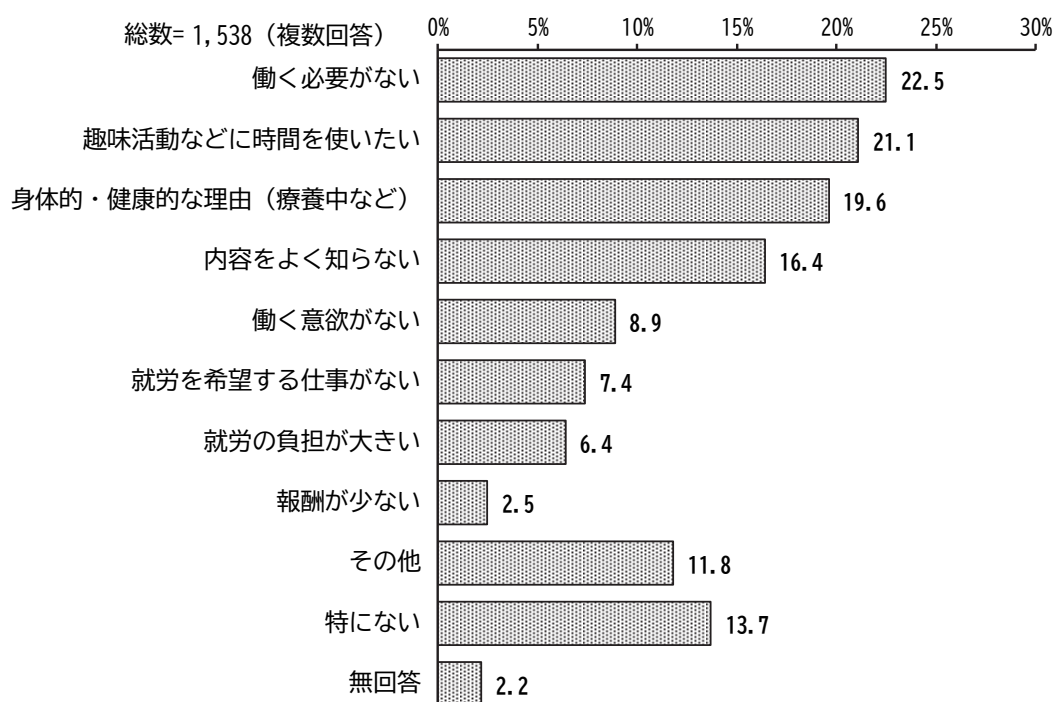


【問 41 で「2. 希望しない」と回答した方におたずねします。】

問 42 あなたがシルバー人材センターでの就労を希望しない理由はどれですか。  
(○はいくつでも)

シルバー人材センターでの就労を希望しない理由では、「働く必要がない」の割合が 22.5%で最も高く、次いで「趣味活動などに時間を使いたい」が 21.1%、「身体的・健康的な理由 (療養中など)」が 19.6%、「内容をよく知らない」が 16.4%となっている。

図表 7-11-5 シルバー人材センターでの就労を希望しない理由





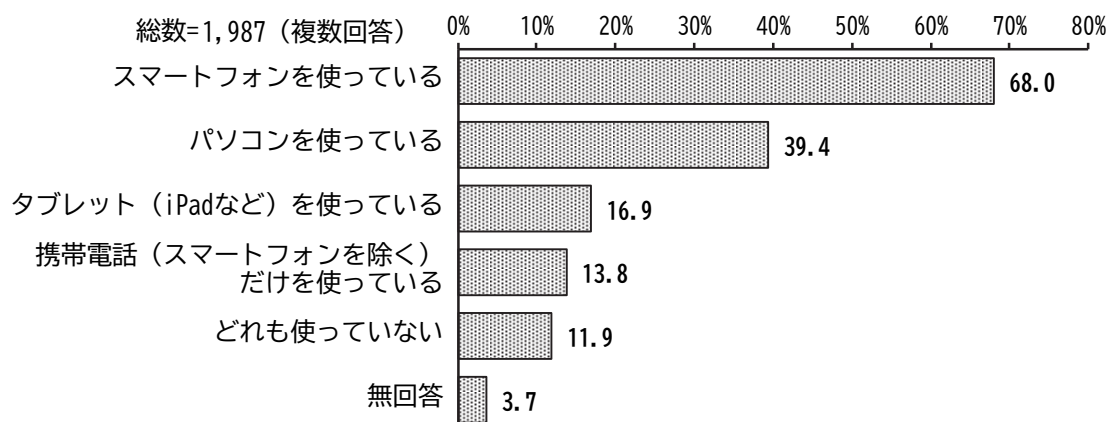
## 12 デジタル技術の活用について

### (1) 通信機器等の使用について

問 43 あなたは日頃、通信・通話機器を使っていますか。(〇はいくつでも)

通信機器等の使用については、「スマートフォンを使っている」の割合が68.0%で最も高く、次いで「パソコンを使っている」が39.4%、「タブレット(iPadなど)を使っている」が16.9%となっている。また、携帯電話も含めて「どれも使っていない」は11.9%となっている。

図表7-12-1 通信・通話機器の日常的な使用



性別・年齢階級別にみると、「スマートフォンを使っている」の割合が男性（69.0%）・女性（67.3%）ともに最も高く、65歳～84歳までの年代では高い割合でスマートフォンが使用されていることがうかがえる。また、「パソコンを使っている」では男性の割合がどの年代でも高い。一方で、「どれも使っていない」の割合は、男女ともに85歳以上で高くなっている。

図表7-12-2 通信・通話機器の日常的な使用（性別・年齢階級別）  
（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	スマートフォンを使っている	タブレット（iPadなど）を使っている	パソコンを使っている	携帯電話（スマートフォンを除く）だけを使っている	どれも使っていない	無回答
全体		1,987 100.0	1,352 68.0	335 16.9	782 39.4	275 13.8	237 11.9	74 3.7
性別・年齢階級	男性全体	820 100.0	566 69.0	137 16.7	446 54.4	110 13.4	83 10.1	23 2.8
	65～69歳	188 100.0	170 90.4	56 29.8	134 71.3	12 6.4	1 0.5	1 0.5
	70～74歳	202 100.0	156 77.2	38 18.8	119 58.9	22 10.9	12 5.9	4 2.0
	75～79歳	180 100.0	130 72.2	27 15.0	104 57.8	26 14.4	11 6.1	6 3.3
	80～84歳	128 100.0	73 57.0	13 10.2	54 42.2	24 18.8	16 12.5	6 4.7
	85～89歳	76 100.0	24 31.6	2 2.6	25 32.9	17 22.4	25 32.9	4 5.3
	90歳以上	44 100.0	12 27.3	1 2.3	9 20.5	9 20.5	18 40.9	2 4.5
	女性全体	1,099 100.0	740 67.3	186 16.9	308 28.0	157 14.3	147 13.4	46 4.2
	65～69歳	206 100.0	187 90.8	65 31.6	110 53.4	14 6.8	4 1.9	2 1.0
	70～74歳	254 100.0	212 83.5	62 24.4	94 37.0	20 7.9	13 5.1	5 2.0
	75～79歳	235 100.0	172 73.2	35 14.9	61 26.0	28 11.9	26 11.1	5 2.1
	80～84歳	193 100.0	114 59.1	17 8.8	28 14.5	42 21.8	24 12.4	11 5.7
	85～89歳	131 100.0	39 29.8	3 2.3	13 9.9	40 30.5	39 29.8	15 11.5
	90歳以上	77 100.0	15 19.5	4 5.2	2 2.6	12 15.6	40 51.9	8 10.4
無回答	68 100.0	46 67.6	12 17.6	28 41.2	8 11.8	7 10.3	5 7.4	

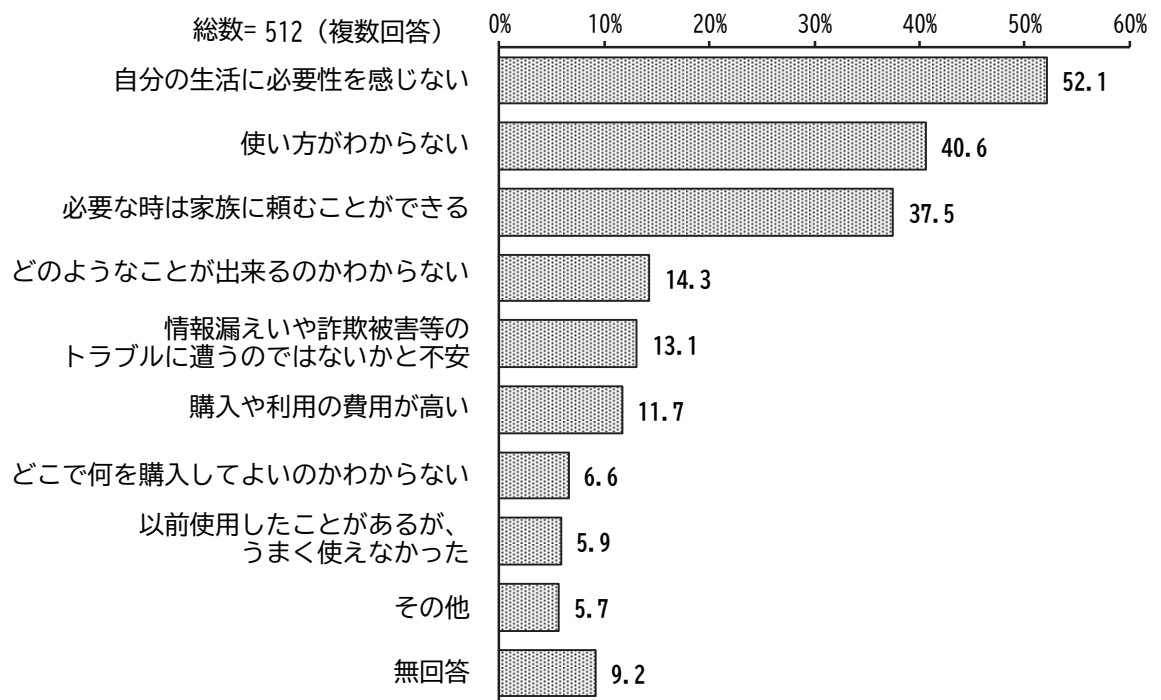
【問43で「4」と「5」のいずれかに○をつけた方におたずねします。】

問44 スマートフォンやタブレット、パソコンを使っていない理由を教えてください。

(○はいくつでも)

通信・通話機器を使っていない理由については、「自分の生活に必要性を感じない」の割合が52.1%で最も高く、次いで「使い方がわからない」が40.6%、「必要な時は家族に頼むことができる」が37.5%、「どのようなことが出来るのかわからない」が14.3%、「情報漏えいや詐欺被害等のトラブルに遭うのではないかと不安」が13.1%となっている。

図表7-12-3 通信・通話機器を使っていない理由

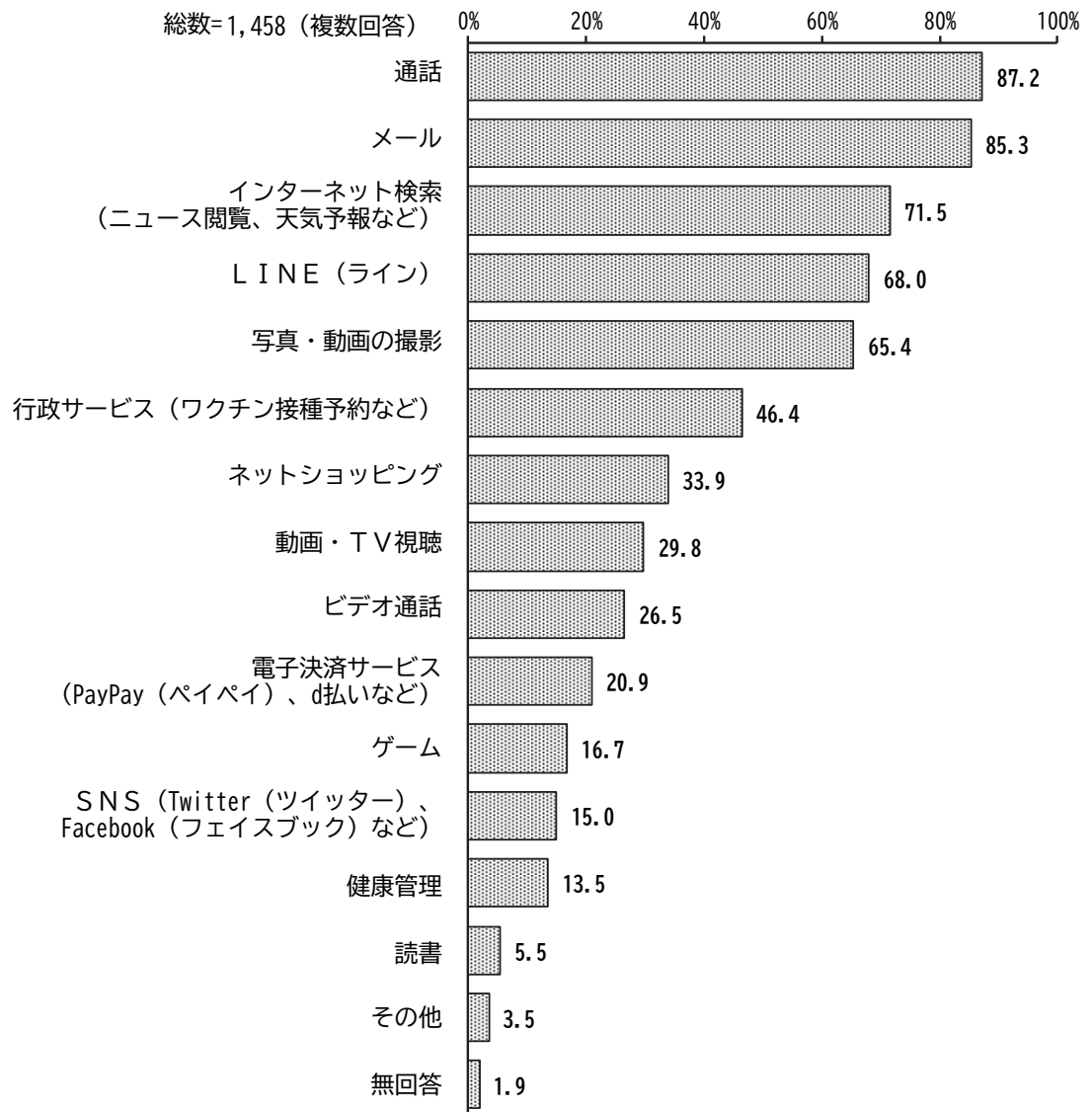


【問43で「1」、「2」、「3」のいずれかに○をつけた方におたずねします。】

問45 現在、通信・通話機器をどのようなことに使用していますか。(○はいくつでも)

通信・通話機器をどのようなことに使用しているかでは、「通話」の割合が87.2%と最も高く、次いで「メール」が85.3%、「インターネット検索(ニュース閲覧、天気予報など)」が71.5%、「LINE(ライン)」が68.0%、「写真・動画の撮影」が65.4%となっている。

図表7-12-4 通信・通話機器をどのようなことに使用しているか



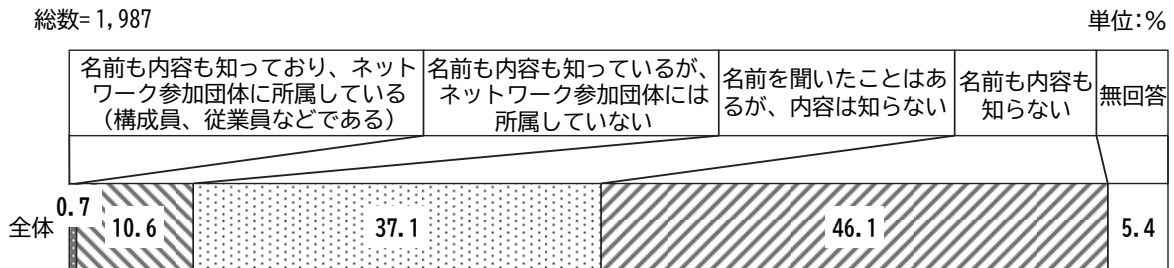
### 13 地域での見守りや支え合いについて

#### (1) 見守りネットワークの認知度

問 46 目黒区では、事業者や団体などが仕事や活動を通して地域の高齢者などをゆるやかに見守る「見守りネットワーク」を実施しています。あなたは「見守りネットワーク」をご存じですか。(〇は1つ)

「見守りネットワーク」の認知度については、「名前も内容も知らない」の割合が46.1%で最も高く、次いで「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」が37.1%、「名前も内容も知っているが、ネットワーク参加団体には所属していない」が10.6%となっている。

図表7-13-1 見守りネットワークの認知度

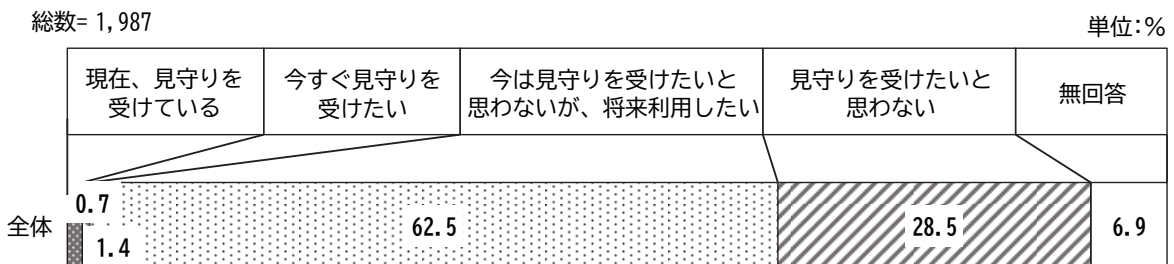


#### (2) 「高齢者見守り訪問事業」の利用意向

問 47 目黒区では、見守りを希望するひとり暮らしなどの高齢者を、見守りボランティアが定期的に訪問または戸外から見守る「高齢者見守り訪問事業」を実施しています。あなたは、このような見守りを受けたいと思いますか。(〇は1つ)

「高齢者見守り訪問事業」の利用意向については、「今は見守りを受けたいと思わないが、将来利用したい」の割合が62.5%で最も高い。次に、「見守りを受けたいと思わない」が28.5%となっている。

図表7-13-2 「高齢者見守り訪問事業」の利用意向



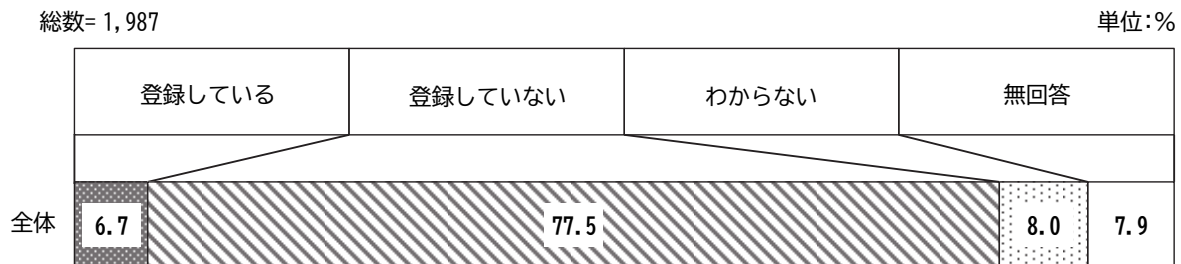
## 14 目黒区の高齢者への生活支援サービスなどについて

### (1) ひとりぐらし等高齢者登録の有無

問 48 目黒区では、65歳以上の方で、ひとり暮らしや高齢者のみの世帯の方に緊急連絡先、電話番号などを登録していただき、緊急時や災害時の安否確認などに対応するため、「ひとりぐらし等高齢者登録」を行っています。あなたは登録していますか。(〇は1つ)

ひとりぐらし高齢者登録の有無については、「登録していない」の割合が77.5%と最も高く、次いで「わからない」が8.0%、「登録している」は6.7%となっている。

図表7-14-1 ひとりぐらし高齢者等登録の有無

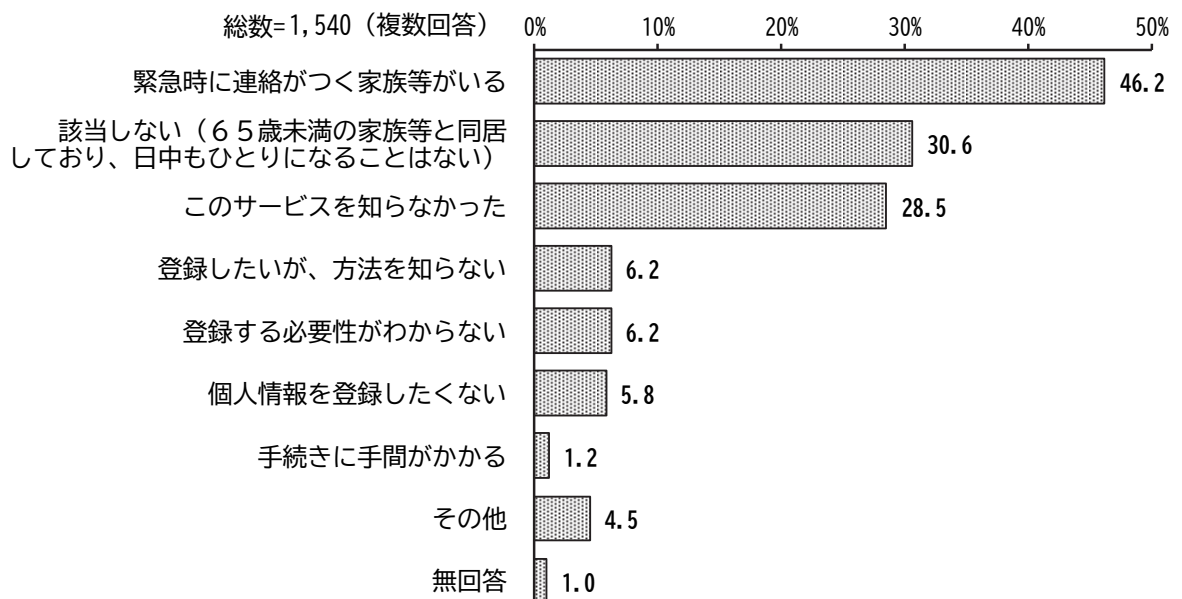


【問 48 で、「2. 登録していない」と回答した方におたずねします。】

問 49 登録していない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

登録していない理由では、「緊急時に連絡がつく家族等がいる」の割合が46.2%で最も高く、次いで「該当しない(65歳未満の家族等と同居しており、日中もひとりになることはない)」が30.6%、「このサービスを知らなかった」が28.5%、「登録したいが、方法を知らない」と「登録する必要性がわからない」がともに6.2%となっている。

図表7-14-2 登録をしていない理由

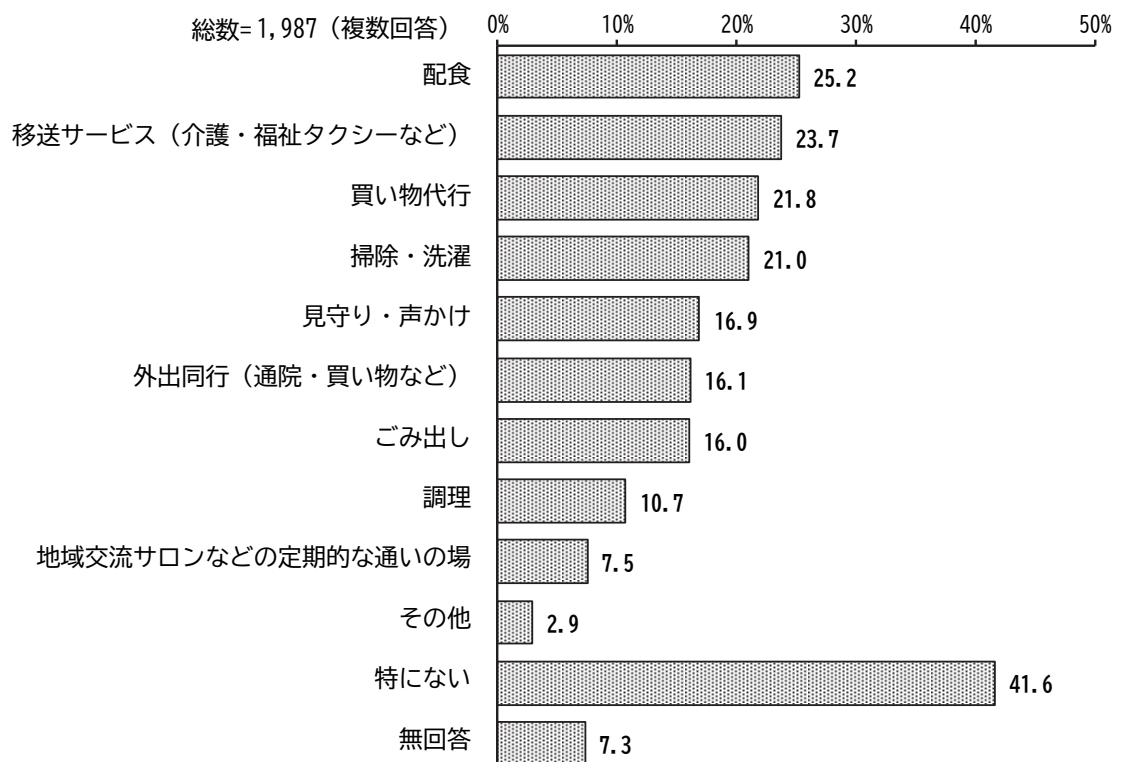


## (2) 自宅での生活を続けるために必要な支援やサービス

問 50 あなたは、自宅での生活を続けるためには、どのような支援やサービスが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

自宅での生活を続けるために必要な支援やサービスでは、「特にない」の割合が41.6%で最も高く、次いで「配食」が25.2%、「移送サービス(介護・福祉タクシーなど)」が23.7%、「買い物代行」が21.8%、「掃除・洗濯」が21.0%となっている。

図表7-14-3 自宅での生活を続けるために必要な支援やサービス



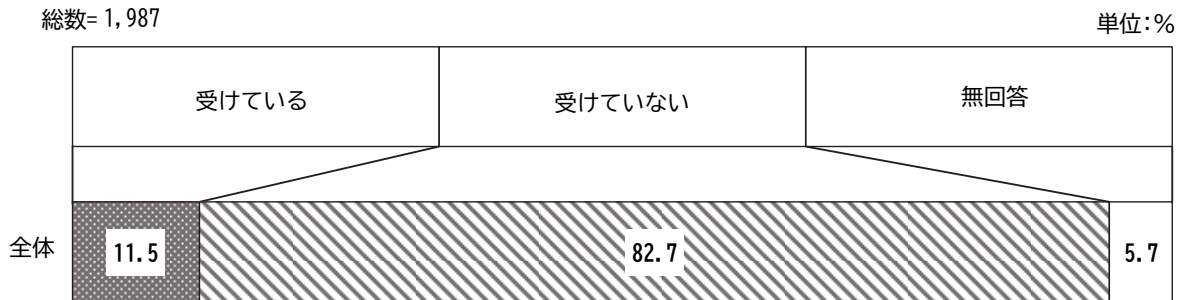
## 15 家族介護について

### (1) 家族からの介護の状況

問 51 あなたは、日常生活であなたの家族からの介護を受けていますか。(○は1つ)

家族からの介護の状況は、「受けている」の割合が 11.5%、「受けていない」が 82.7%となっている。

図表 7-15-1 家族からの介護の状況

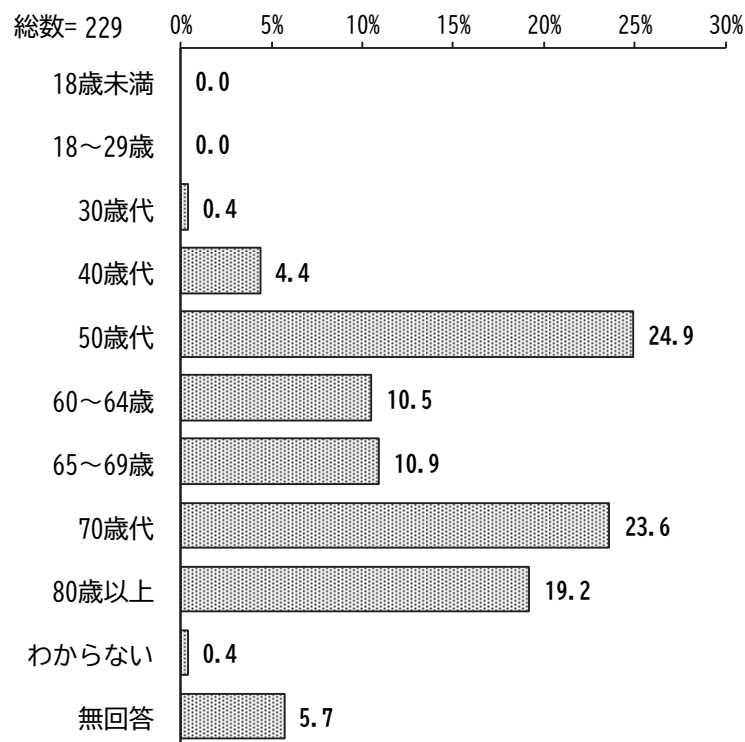


【問 51 で、「1. 受けている」と回答した方におたずねします。】

問 52 主な介護者の方の年齢をお答えください。(○は1つ)

主な介護者の年齢は、「50 歳代」の割合が 24.9%で最も高く、次いで「70 歳代」が 23.6%、「80 歳以上」が 19.2%、「65~69 歳」が 10.9%となっている。

図表 7-15-2 主な介護者の年齢



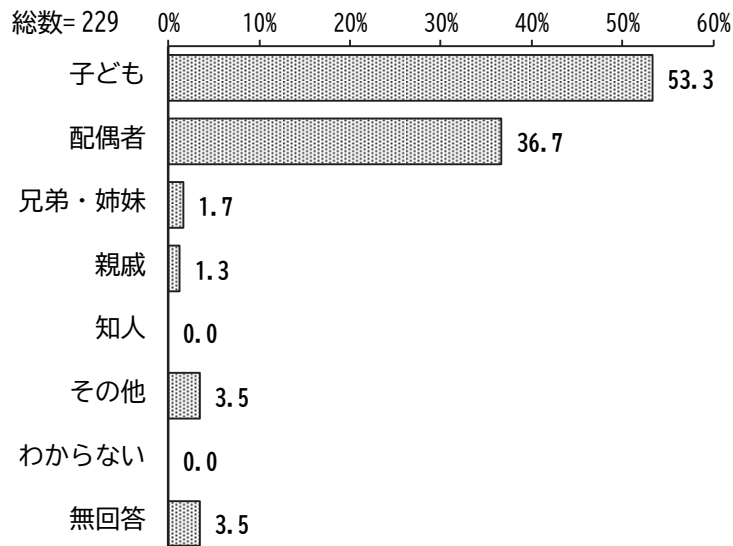


【問51で、「1. 受けている」と回答した方におたずねします。】

問53 あなたと、主な介護者の方との関係はどれですか。(〇は1つ)

主な介護者との関係は、「子ども」の割合が53.3%で最も高く、次いで「配偶者」が36.7%、「兄弟・姉妹」が1.7%となっている。

図表7-15-3 主な介護者の方との関係

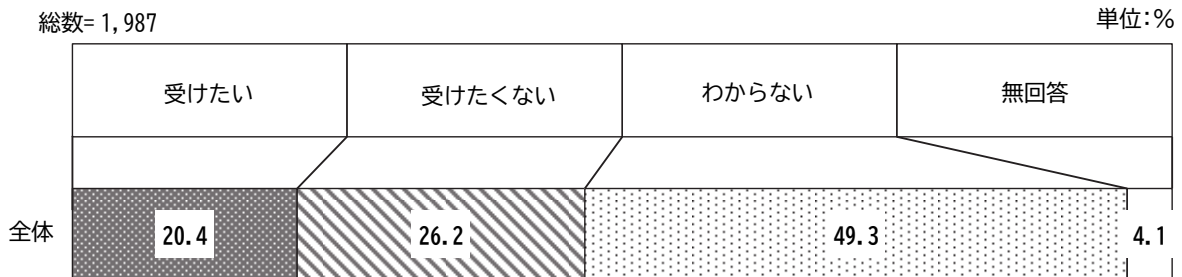


【問51で、「2. 受けていない」と回答した方におたずねします。】

問54 あなたは、今後、家族からの介護を受けたいと思いますか。(〇は1つ)

家族介護を希望するかについては、「わからない」の割合が49.3%と最も高く、次いで「受けたくない」が26.2%、「受けたい」が20.4%となっている。

図表7-15-4 家族からの介護を希望するか



性別・年齢階級別にみると、「受けない」で、男性（26.9%）、女性（15.6%）と、男性が女性を上回っている。一方、「受けたくない」の割合では、すべての年代で女性が男性を上回っている。

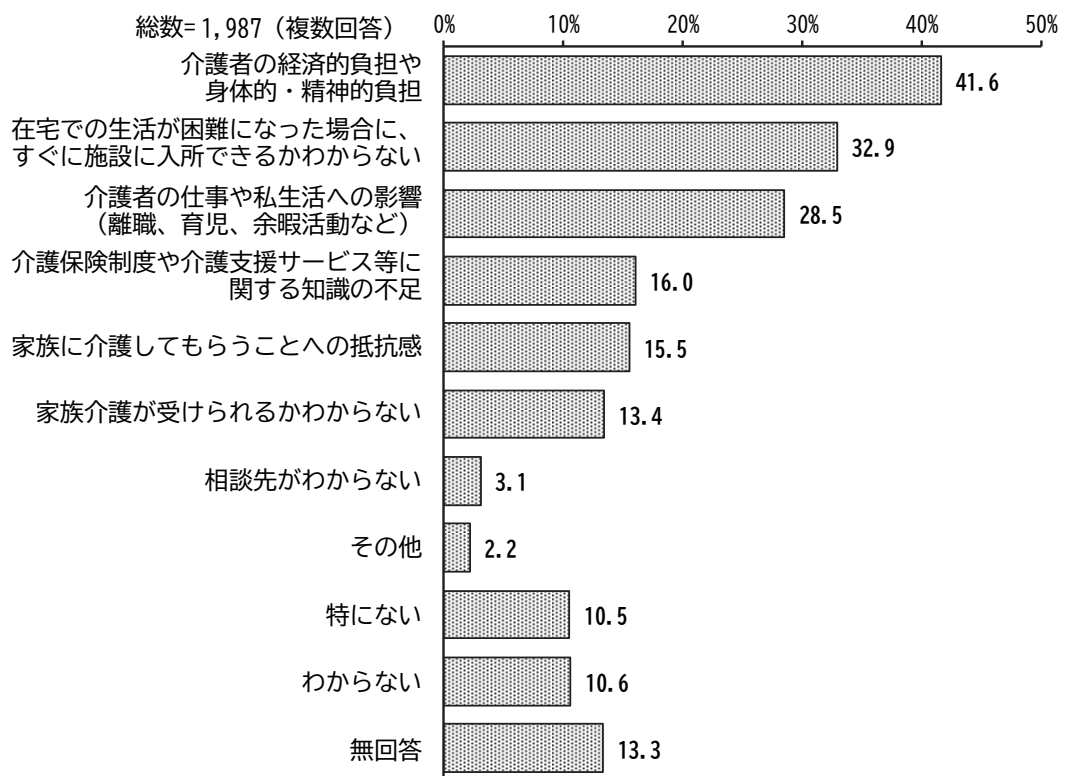
図表7-15-5 家族からの介護を希望するか（性別・年齢階級別）  
（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	受けない	受けたくない	わからない	無回答
全体		1,644 100.0	336 20.4	430 26.2	810 49.3	68 4.1
性別・年齢階級	男性全体	689 100.0	185 26.9	139 20.2	344 49.9	21 3.0
	65～69歳	181 100.0	34 18.8	48 26.5	95 52.5	4 2.2
	70～74歳	183 100.0	36 19.7	44 24.0	102 55.7	1 0.5
	75～79歳	158 100.0	47 29.7	24 15.2	79 50.0	8 5.1
	80～84歳	102 100.0	40 39.2	19 18.6	39 38.2	4 3.9
	85～89歳	49 100.0	23 46.9	3 6.1	22 44.9	1 2.0
	90歳以上	15 100.0	4 26.7	1 6.7	7 46.7	3 20.0
	女性全体	902 100.0	141 15.6	282 31.3	435 48.2	44 4.9
	65～69歳	199 100.0	20 10.1	77 38.7	98 49.2	4 2.0
	70～74歳	239 100.0	30 12.6	78 32.6	121 50.6	10 4.2
	75～79歳	209 100.0	33 15.8	62 29.7	106 50.7	8 3.8
	80～84歳	145 100.0	29 20.0	37 25.5	68 46.9	11 7.6
	85～89歳	75 100.0	17 22.7	21 28.0	27 36.0	10 13.3
	90歳以上	32 100.0	11 34.4	7 21.9	13 40.6	1 3.1
	無回答	53 100.0	10 18.9	9 17.0	31 58.5	3 5.7

問 55 家族介護を受けながら、現在の生活を継続していくにあたって、あなたが不安に感じることに  
 についてお答えください。(〇は3つまで)

家族介護を受けながらの生活上の不安は、「介護者の経済的負担や身体的・精神的負担」の割合が41.6%で最も高く、次いで「在宅での生活が困難になった場合に、すぐに施設に入所できるかわからない」が32.9%、「介護者の仕事や私生活への影響(離職、育児、余暇活動など)」が28.5%、「介護保険制度や介護支援サービス等に関する知識の不足」が16.0%となっている。

図表7-15-5 家族介護を受けながらの生活で不安に感じること



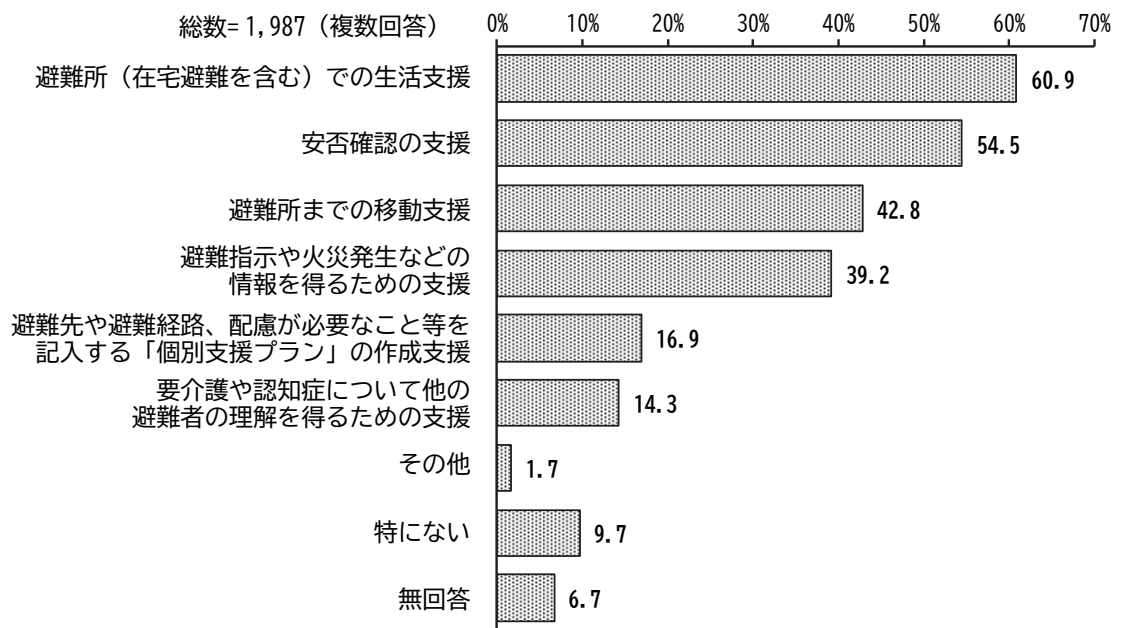
## 16 災害時の対策について

### (1) 緊急時の対応について不安なこと

問 56 災害（地震、風水害等）が発生した時や事前の備えに、どのような支援が必要とと思いますか。（〇はいくつでも）

緊急時や事前の備えに必要な支援は、「避難所（在宅避難を含む）での生活支援」の割合が 60.9% で最も高く、次いで「安否確認の支援」が 54.5%、「避難所までの移動支援」が 42.8%、「避難指示や火災発生などの情報を得るための支援」が 39.2%となっている。

図表 7-16-1 緊急時や事前の備えに必要な支援



家族構成別にみると、ほとんどの家族構成で「避難所（在宅避難を含む）での生活支援」の割合が最も高くなっている。

また、「夫婦のみ（配偶者は64歳以下）」では、「安否確認の支援」の割合が61.5%と、他の家族構成と比べて高くなっている。

図表7-16-2 緊急時や事前の備えに必要な支援（家族構成別）

（上段：回答数、下段：構成比）

		全体	安否確認の支援	避難所までの移動支援	避難指示や火災発生などの情報を得るための支援	避難所（在宅避難を含む）での生活支援	「個別支援プラン」の作成支援 避難先や避難経路、配慮が必要なこと等を記入する	要介護や認知症について他の避難者の理解を得るための支援	その他	特にない	無回答
全体		1,987 100.0	1,083 54.5	850 42.8	779 39.2	1,210 60.9	335 16.9	285 14.3	33 1.7	193 9.7	134 6.7
家族構成	ひとり暮らし	460 100.0	246 53.5	197 42.8	169 36.7	251 54.6	78 17.0	43 9.3	4 0.9	50 10.9	43 9.3
	夫婦のみ （配偶者は65歳以上）	644 100.0	367 57.0	273 42.4	256 39.8	400 62.1	104 16.1	92 14.3	9 1.4	59 9.2	33 5.1
	夫婦のみ （配偶者は64歳以下）	96 100.0	59 61.5	35 36.5	43 44.8	57 59.4	14 14.6	15 15.6	1 1.0	6 6.3	7 7.3
	息子・娘と同居 （息子・娘は65歳以上）	51 100.0	21 41.2	20 39.2	21 41.2	24 47.1	8 15.7	12 23.5	1 2.0	6 11.8	5 9.8
	息子・娘と同居 （息子・娘は64歳以下）	486 100.0	259 53.3	219 45.1	197 40.5	322 66.3	86 17.7	87 17.9	11 2.3	42 8.6	24 4.9
	その他	155 100.0	84 54.2	68 43.9	60 38.7	101 65.2	29 18.7	24 15.5	4 2.6	16 10.3	9 5.8
	無回答	95 100.0	47 49.5	38 40.0	33 34.7	55 57.9	16 16.8	12 12.6	3 3.2	14 14.7	13 13.7

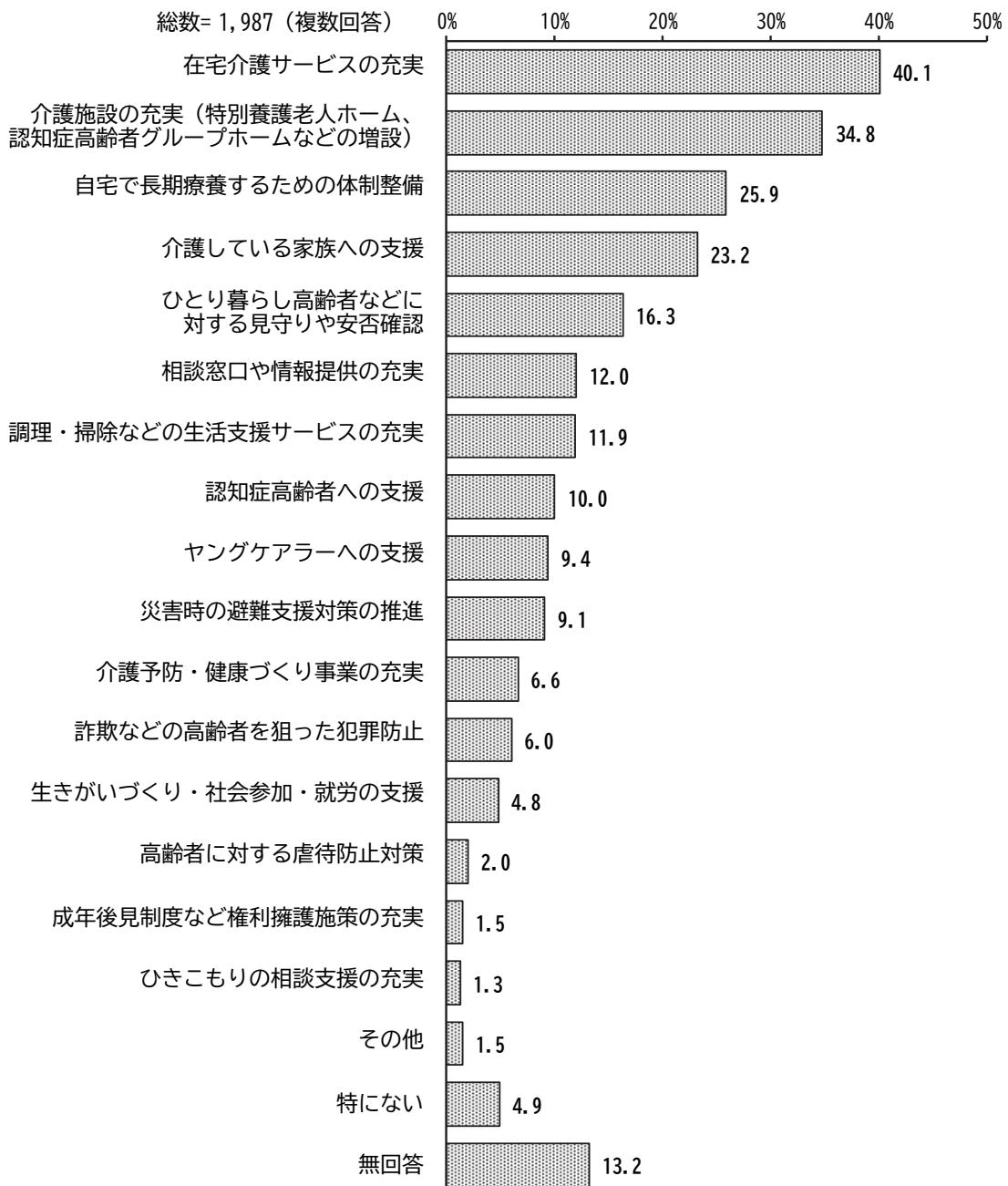
## 17 高齢者施策全般について

### (1) 優先的に取り組む必要がある高齢者施策

問 57 目黒区において、これからの高齢者施策で優先的に取り組む必要があると思うものはどれですか。(〇は3つまで)

優先的に取り組む必要がある高齢者施策は、「在宅介護サービスの充実」の割合が40.1%で最も高く、次いで「介護施設の充実（特別養護老人ホーム、認知症高齢者グループホームなどの増設）」が34.8%、「自宅で長期療養するための体制整備」が25.9%、「介護している家族への支援」が23.2%となっている。

図表7-17-1 優先的に取り組む必要がある高齢者施策



## 18 自由意見

問 58 目黒区の介護保険・高齢福祉行政に関してご意見やご提案がありましたら、お聞かせください。

目黒区の介護保険・高齢福祉行政に関してご意見・ご提案等を自由に記入していただいたところ、368人から回答が寄せられた。

※原文の文意が損なわれないように抜粋して記載。

### 介護保険制度全般について

- 高齢者といっても、様々な経済事情の方や家族の事情もあるので、介護サービスの種類を増やしてほしいです。介護保険を越えた、自費のサービスなども充実してほしいです。
- 介護サービスの利用に当たり、家族が同居していると利用しにくい制度を改善してほしいです。持病のために思うように身体が動けなく、気持ちばかり焦って、やれる事に限りがあります。
- 制度が充実してくると逆に柔軟性がなくなってくると思います。ほんの少しの支援が欲しい時でも手続きが必要です。仕事をしながら高齢の親を抱えていると、日々はそれほど暇ではなく、日中の対応等は困ることがあります。もう少し柔軟に対応してほしいです。
- 介護を受けるのが当然の流れだという前提をなんとか変えることができればと思います。一人で生き切るという気力を失わずに生きていられるためにはどうするか。そのための行政の支援はどんなものがありうるのか、検討をお願いしたいです。
- 介護保険料を支払っていても、介護について分からない事が多いです。区報に介護サービスの内容、事例、施設等を分かり易く解説してほしいです。
- 介護サービス等の生活支援を必要とする人への施策の充実とともに、良い生活習慣を実行し、心身ともに健康で自立した高齢者にインセンティブ（評価される）の働く仕組みも考えてほしいです。

### 介護保険料について

- 年金が毎年下がる中、物価も高騰しており、保険料の負担が大きいと感じています。
- 少ない年金から介護保険料を引かれてしまい、とても苦しいです。
- 保険料が高額であり、介護サービスを利用していない場合は負担が小さいとは言えません。不公平がないアイデアがあればと思います。
- 保険料の上限をなくし、高額所得者の負担が軽くなるのを廃止して、不公平を無くしてほしいです。国政レベルの話だと思いますが、地方からも声を上げてもらいたいです。

### 要介護認定について

- 過去の経験では、地域包括支援センターに認定申請してから結果がわかるまで、とても長く時間がかかりました。病院か施設又は家で介護するか判断が難しい時、もう少し早く結果が出ていれば、親族で話し合うことが出来たと思います。

○認定申請の手続が面倒で手間がかかり大変だと思います。

### 在宅サービスについて

- 訪問介護を充実してほしいです。
- 在宅介護サービス、生活支援サービスについて、積極的に取り組んでほしいです。
- 現在デイサービスを利用して、日常生活において多少なりとも充実した生活を送っていますが、更に質が向上した良い施設があればうれしいです。
- 自宅にはヘルパーさんが入っていますが、ヘルパーさんがもう少し自由に動けると良いと思います。
- 介護サービスをケアマネジャーが管理すると時間を要し、ケアマネジャーのオーバーワークになるとともに、必要な介護の提供スピードを遅らせることになっています。
- ひとり暮らしの方に対して、急病時に低額な料金で医療機関へ付き添ってもらえるサービスがあれば良いと思います。
- 介護保険の不足する部分、国が面倒をみれない部分、例えば、住宅改修の個人負担分や大人用おむつは、全額、区が負担すべきです。

### 施設サービス、住まいについて

- 家族を特別養護老人ホームに入所させたかったのですが、待機者が多く、入所は不可能と感じました。施設の拡充と担い手を増やしてほしいです。
- 自宅に居ながら介護を受けることには限界があると思います。介護者が1軒1軒訪問することは非効率と思います。老後の生活を少しでも有意義に生きたいと思える施設を作してほしいです。年金と公的助成金により利用できる安心の介護施設をお願いします。
- 特別養護老人ホームへ入所する際、国民年金の収入で特別養護老人ホームを利用できるかどうか心配です。
- 特別養護老人ホームの入所申請をしていますが、順位結果だけが通知されます。なぜその順位に至ったのか、項目別の基準と得点なども合わせて開示していただきたいです。また、希望する施設の優先が低い場合、早く入所が出来るような施設の紹介があっても良いと思います。
- 特別養護老人ホームへの申込みを希望の施設に直接申し込めるようにしてほしいです。
- 高齢者福祉住宅は現在 17 棟あるようですが、各地区 1~2 棟増やしてほしいです。
- ある程度支払い能力のある人向けの老人ホーム・サポート住宅を作してほしいです。食事が提供され、体調不良になった時にお手伝い頂ける看護師さんの居る住宅です。家族に負担を掛けずに生活をしたいです。

### 介護人材について

- 信頼できる介護サービス事業者の育成、介護の仕事に携わる方々の人権教育を促すようお願いしたいです。
- ホームヘルパーの質の向上を検討してください。無神経な対応に利用者が不快な思いをしたことを聞くことがあります。



- 支援を受ける側には様々な異なった状況があるので、それらに充分対応出来るような、支援する側のスキルアップを希望します。

### 経済的負担について

- 毎日の生活が非常に苦しい状況です。収入がなく、食べることすら厳しいです。
- 年金で生活しながら、両親の面倒を見ている友人がいます。両親とも身体障害があり、介護サービスなどを受けたいにも、年金生活では金銭的に限界があるとのこと。また、毎日の洗濯や食事の準備などで、自分自身も精神的にもたないとのこと。こういった家庭に負担がかからないように支援をしてくれる行政を行ってほしいです。
- 介護保険料が増え、年金が減って、物価が上がり、ますます生活が苦しくなっています。
- 介護サービスの自己負担金を軽減してほしいです。
- 都営住宅や区営住宅に毎回応募していますが、今住んでいる近辺や希望の場所だと倍率が高く、入居はまず無理だと感じます。収入が年金だけになった時には、とても不安です。1人暮らしの高齢者に住居費の一部として毎月1~2万円の補助があると安心して暮らせると思います。
- 介護保険料を払っているのに、介護サービスを利用するにも、結構なお金が必要になると思います。サービスを利用した際の利用料負担が多くなり、回数が多くなると思うように利用できないのではないかと不安です。是非、無料化をお願いします。皆が平等に必要な支援を受けられるよう、行政が力を入れるべきだと思います。

### 将来への不安・悩みについて

- 高齢になると友達も亡くなり、孤立して寂しい思いをする傾向になります。同年代でつながって楽しんだり、悩みを共有できたらと思います。
- コロナ禍の下、高齢者の健康保持・増進の具体的な実施策が見えません。体力の低下が著しい状況です。
- 自分が亡くなった後のことについて、誰にお願いしておけばよいのか、費用はいくら準備しておけばよいのか、部屋の片づけは誰にお願いしておけばよいのか心配です。
- コロナウイルスの感染や、災害時に、きちんと対処出来るか不安があります。
- 親族がいないので、寝たきり、認知症、孤独死等、何もかも不安です。
- 将来的に施設に入るとして、スムーズに入所できるのか、経済的負担は大丈夫かなど、行政がどこまでサポートしてくれるのか不安が多いです。

### 家族介護について

- 老々介護の介護者を完全に休ませるための施策が必要だと思います。ショートステイに預けることの不安と後ろめたさの解消が必要です。
- 家族介護者は、被介護者がショートステイを利用している時に、家のことをやらなくてはなりません。家を離れて一息つける時間や介護者のための休日があれば良いと思います。
- 親を介護した経験と介護を受ける身になった時を考え、行政の窓口が一つだと家族がストレスなく、相談もしやすくなると思います。

○認知症の親の介護でヘトヘトになっています。

### 生きがい、社会参加

- 新型コロナウイルス感染拡大によって、老人いこいの家での活動が激減し、これに伴い会員も激減した反省から、趣味サークルの充実や茶話会等を通じて、健康寿命の延伸と介護負担の減少が必要だと思えます。
- 町会や老人いこいの家等の活動について、支援の増大をお願いしたいです。
- 男性が参加しやすい会をつくってほしいです。
- 老後を生きがいのあるものにするため、話し相手になる、趣味をいかす、生活の不安をなくすなど、多面的な活動が求められています。色々なボランティア活動が大事だと思えます。
- 高齢者を対象とした健康スポーツ、趣味等のサークル活動の推進と高齢者に対する各種活動の割引を充実してほしいです。
- ボランティアであっても、区の講習を受講し、認定するシステムがあれば、お手伝いがもう少し自信をもって出来ると思えます。このような“講習”システムを充実してくれたらうれしいです。
- 現在は健康で老人カテゴリーへの参加に魅力を感じていません。老人クラブではなく、50歳代が参加できるように対象年齢の幅を広げてほしいです。

### デジタル技術について

- スマートフォンなどの通信機器での対応を求められることがありますが、持っていないので対応に困ります。80歳を過ぎると、ひとりで購入にも行けません。
- 近年スマートフォンやSNSでの対応が増えていますが、高齢者には、併せて紙での対応もしてもらいたいです。
- 貧困・障害・年齢によってスマホを持ってない、使いこなせない人達も少なからずいます。私も含め、そのような人達はどうか対処していけばいいのでしょうか。国はデジタル化を進めていますが、世の中から置いていかれる感覚です。

### まちづくりについて

- コミュニティーバスを福祉施策と捉えている様子がない。バスだけでなく、交通政策がない。街づくりセンターを廃止してしまって、何が福祉の街づくりなのかと思えます。
- 夜間の信号機の間隔が短く、数歩で赤に変わり、渡り切れません。延長できるボタンなどを付けてほしいです。学芸大学駅近くの商店街が閉まると道路が暗いので、もっと明るくしてほしいです。高齢者、弱者が安心して歩けるやさしい街であってほしいです。
- 高齢者になると歩道での自転車の使用について危険性を感じています。歩行者、自転車の区分けができる幅の広い歩道以外は自転車の通行を禁止してもらいたいです。
- 防災無線のスピーカーが非常に聞き取りづらく、何を言っているのかわかりません。
- これからも高齢者が増えると思うので、高齢者や障害者が休憩できるよう、街中にベンチを作ってください。

## その他

- 独居老人が多いので、孤独死がないよう、安否確認方法を検討してほしいです。
- 個人の生活を充実させる事が「老人が生きる」ということではないでしょうか。個人の体を大切にして、行政がバックアップしてくれているという安心感があれば、前向きに生活できるのではないかと思います。
- 私は耳が聞こえにくく、情報が入りづらいです。他人との交流もしづらい時があるので配慮がほしいです。
- 高齢者、難聴者の補聴器購入に対して助成をしてほしいです。これは認知症増加を防ぐことにもなります。
- 見守りネットワークも大切ですが、近所の人達による見守りが一番良いと思います。
- 限られた予算の中では、中高年に多くを拠出することなく、できるだけ若い層に使うべきだと思います。若い人に住みやすい街、住みたいと思われる街を目指すべきだと思います。
- 要介護者への施策も大切ですが、要介護になるまでの健康寿命を延ばす施策にも力を入れていただきたいです。その施策の1つとして室内スポーツが出来るような区の施設の充実をお願いしたいです。
- 目黒区では色々な施策がありますが、高齢者が知らないことが多いので、日ごろから繰り返してPRをしてほしいです。
- 老々介護の家庭には、特に優先的に安否の確認などをお願いしたいです。
- ひとり暮らし高齢者等への見守り・安否確認について、現在の人的対応やセンサーなどの機械による方法も必要と思いますが、LINEによる方法もあったら良いと思います。これからの高齢者はスマホ年代になるので、LINEに抵抗ない方は増えると思います。
- 高齢者といっても、とても年齢の幅が広く、心身状況、経済状況はそれぞれ異なります。高齢者という枠の区分を再考する必要があるのではないのでしょうか。
- 目黒区の状況はわかりませんが、朝食を食べられない子供が6家族に1家族いると聞いて驚きました。身近にそのような子供がいたとして、その子がヤングケアラーであったとしたら、とてもやり切れない悲しいことです。おむすび一つでもその子が受けられるようなサービスは可能でしょうか。放課後に持ち帰って、家族や自身が食べることが出来るような仕組みは、学校では難しいのでしょうか。ヤングケアラーの負担を軽くするため、高齢者がそのような若者への給食ボランティア活動が学校で出来たら素晴らしいと思います。
- 隣接区と連携して施策を実施することや、東京都全体で施策を実施する方が効率的であり公平性が保たれると思います。かかりつけ医が隣接区にある場合に目黒区の補助が使えない等、行政区割り優先で住民サービスを十分受けられない等の支障があります。
- 成年後見人制度と詐欺などの犯罪防止策をリンクさせて、相互の課題を洗い出し、高齢者に安心感のある終の生活を提供することを真剣に考えるべきではないのでしょうか。

